

CA Client Automation

Remote Control 管理ガイド

12.9



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報であり、CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載されたすべての商標、商号、サービス・マークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルセットで参照されている CA 製品は、以下のとおりです。

- CA Advantage® Data Transport® (CA Data Transport)
- CA Asset Intelligence
- CA APM (CA Asset Portfolio Management)
- CA Business Intelligence
- CA Common Services™
- CA DMM (CA Desktop Migration Manager)
- CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM)
- CA MDM (CA Mobile Device Management)
- CA NSM (CA Network and Systems Management)
- CA Patch Manager
- CA Process Automation
- CA Service Desk Manager
- CA WorldView™

CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章 : Remote Control へようこそ	9
第 2 章 : アーキテクチャ	11
アーキテクチャの概要	12
マネージャ	13
スケーラビリティ サーバ	14
ホスト	14
ビューア	15
グローバル アドレス帳	15
ローカル アドレス帳	16
リプレイヤ	17
ツール	17
第 3 章 : 実装	19
集中管理 Remote Control 設定	20
シナリオ	21
ユーザ	22
Wake-On-LAN	23
クエリ	26
スタンドアロン Remote Control 設定	27
シナリオ	28
ユーザ	28
ユーザが事前設定されたスタンドアロン ホストを展開する方法	29
ローカル アドレス帳のインポートおよびエクスポート	33
rcUtilCmd - ローカル アドレス帳のエクスポート	33
rcUtilCmd コマンド - エクスポートされたアドレス帳のローカル アドレス帳へのインポート	34
スマート カード 認証	35
スマート カードを使用したリモート コンピュータへの接続	37
スマート カードリーダーからの接続解除	38

第 4 章：Remote Control の設定 39

集中管理環境での設定	39
グローバル アドレス帳の設定	40
ユーザおよびユーザ権限の追加	42
ホスト Remote Control 権限の設定	43
拒否セッションのページ	44
スタンドアロン環境での設定	45
ユーザの追加	45
ホスト Remote Control 権限の設定	47

第 5 章：Remote Control のカスタマイズ 49

ビューアおよびホスト プロパティの表示/非表示の制御	50
プロパティの表示および管理の制御	54
デフォルト値の制御	58
Remote Control のダイアログ ボックスのローカライズ	60
テキスト ファイル	60
必要なツール	61
Remote Control のダイアログ ボックスをローカライズする方法	62

第 6 章：記録ファイルのビデオへのエクスポート 67

前提条件	67
変換における注意事項	68
変換形式	69
圧縮コーデックの設定	70
再生エクスポート ツールへのアクセス	71
rcReplayExport コマンド -- [エクスポート] オプションの設定	72

第 7 章：診断およびトラブルシューティング 75

ログ ファイル収集ツール dsminfo	76
接続に関する問題	76
ネットワーク接続に失敗しました	77
IP アドレスに失敗しました	78
Remote Control ホストのステータスが不明です	78
ログオンに関する問題	79
クレデンシャルが無効です	79

接続権限がありません.....	80
再起動ボタンが無効化されている	80
グローバルアドレス帳を抽出できません	81
リモート コントロール セッションが RHEL 5 エージェントで失敗する	81
診断ツール	82
テクニカル サポート	82

付録 A: Remote Control XML ファイル 83

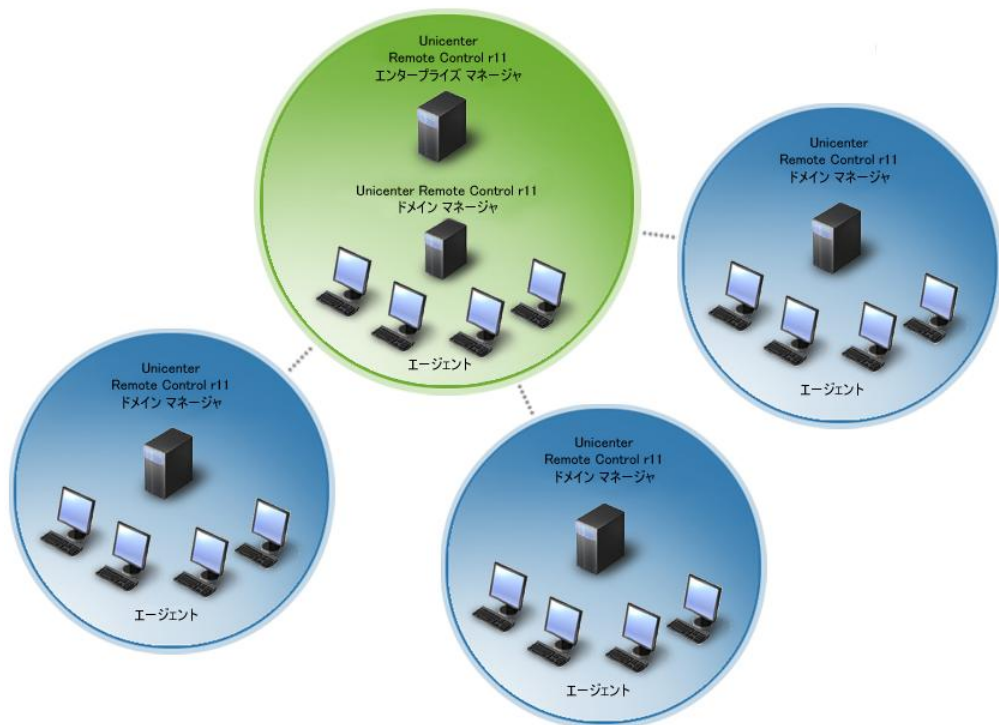
Remote Control XML ファイル	83
-------------------------------	----

第 1 章：Remote Control へようこそ

CA Client Automation には、最新のリモート コントロール製品 **Remote Control** があり、一元化されたエンタープライズ管理を目的に設計されています。この製品を使用すると、ユーザは、自分のローカル コンピュータからネットワーク上の任意の場所にあるコンピュータにインストールされている **Windows**、**Linux**、または **Apple Mac OS X (Intel)** ホスト エージェントを表示および制御できます。**Remote Control** マネージャおよびスケラビリティ サーバは、**Windows** オペレーティング システム環境でのみ利用可能です。

Remote Control は、自宅で仕事をする小さな私企業の所有者から、世界中にコンピュータを設置している巨大企業に至るまで、あらゆる状況で使用できます。また、ヘルプデスク技術者にとっても有用であり、現場に行かなくても問題を調査し、解決することができます。教室を使った研修や会議にも非常に役に立ちます。

このマニュアルでは、リモート コントロール コンピュータ ポリシーを設定し、ユーザのアクセス権およびアクセス許可を管理する企業の管理者に、技術的なサポートを提供します。**Remote Control** 管理では、ドメイン マネージャがエンタープライズ マネージャからポリシーおよびリモート コントロール権限を継承することを許可する、2 層の階層を使用して設定できます。



グローバル ポリシーおよびリモート コントロール権限を定義し、単一のエンタープライズ マネージャから組織全体に簡単に継承させることができます。たとえば、北米ではエンタープライズ マネージャ、北米、南米、ヨーロッパ、およびアジアではドメイン マネージャというように、地理ベースで行うことが可能です。

Remote Control マネージャは、ホストに **Remote Control** セキュリティを定義する情報を提供します。エージェントは、イベントおよびステータス情報をドメイン マネージャにレポートし、また、コマンドも受信します。エンタープライズ マネージャ、ドメイン マネージャ、およびスケーラビリティ サーバは、**DSM** エクスプローラを使用して管理します。

第 2 章：アーキテクチャ

本章では、各種コンポーネントおよび一部の機能の簡単な説明など、Remote Control のアーキテクチャの概要について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[アーキテクチャの概要](#) (P. 12)

[マネージャ](#) (P. 13)

[スケーラビリティ サーバ](#) (P. 14)

[ホスト](#) (P. 14)

[ビューア](#) (P. 15)

[グローバルアドレス帳](#) (P. 15)

[ローカルアドレス帳](#) (P. 16)

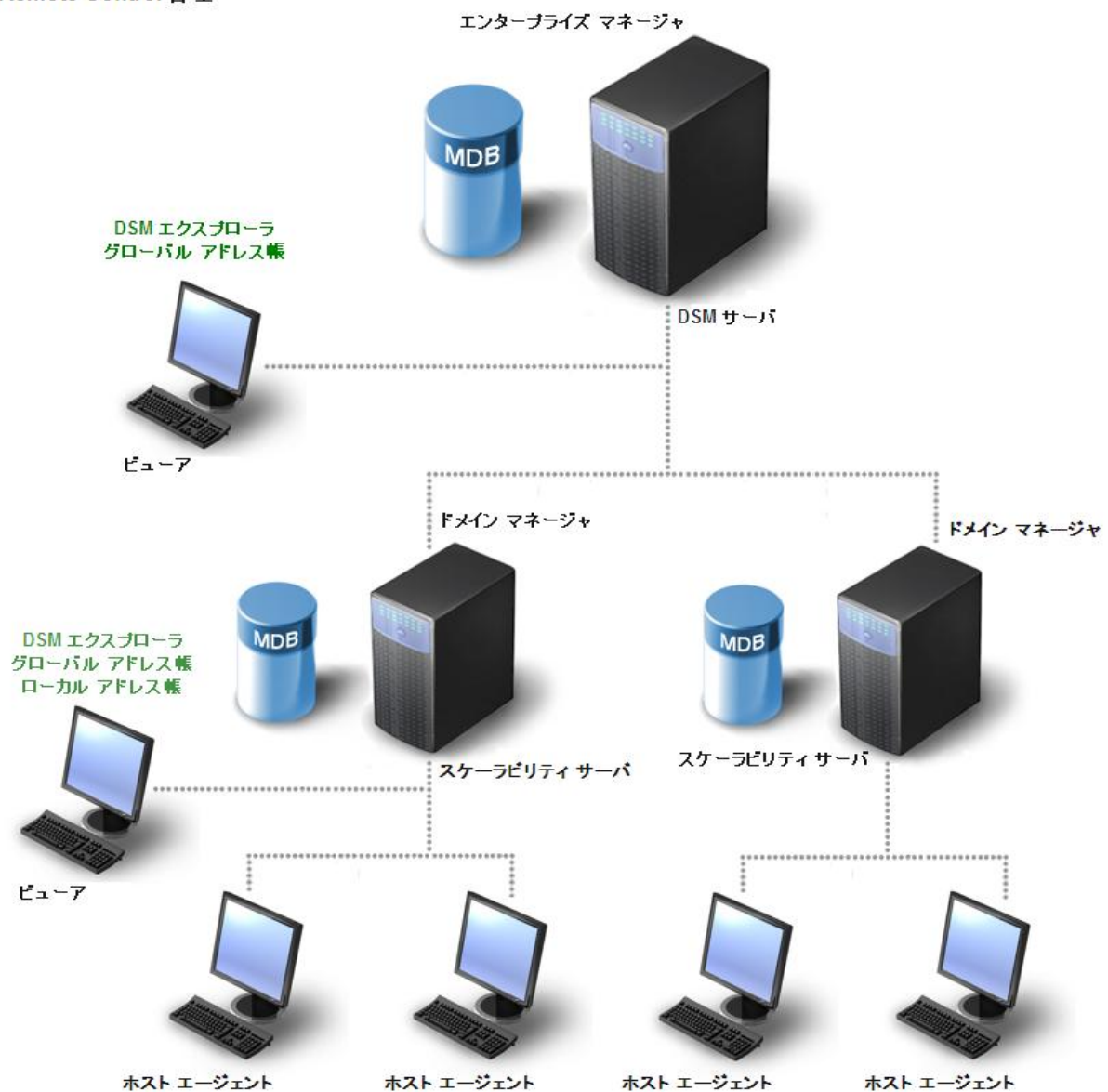
[リプレイヤ](#) (P. 17)

[ツール](#) (P. 17)

アーキテクチャの概要

以下の図に、Remote Control のアーキテクチャを構成する基本コンポーネントを示します。

Remote Control 管理



マネージャ

エンタープライズマネージャ（オプション）は最上位の管理層であり、**CA Client Management Solutions** ドメインのグループに単一の管理ポイントを提供します。また、これにより、複数のドメインに配置されているオブジェクトのグループの設定およびポリシーを設定することもできます。**Client Automation Solutions** 環境に存在できるエンタープライズは、1つのみです。

エンタープライズマネージャは、ネットワークのサーバクラスのコンピュータで動作し、以下の機能を実行します。

- ホストエージェントの設定。
- ユーザ認証および権限。接続プロセスおよび権限の適用時に、ユーザのクレデンシャルの検証を有効にします。

エンタープライズ管理者がエンタープライズマネージャを設定すると、**DSM** エクスプローラツリーの [コントロールパネル] - [マネージャ] の下に **CA Client Automation** コンポーネントが表示されます。マネージャのプロパティを表示するには、マネージャを右クリックし、コンテキストメニューの [プロパティ] をクリックします。

ドメインマネージャは、その他の **Client Automation Solutions** コンポーネント（スケーラビリティサーバやエージェントなど）の集中管理ポイントです。ドメインマネージャは、上記のエンタープライズマネージャの機能と同じ機能を持ちますが、アプリケーションのログやホストエージェントの操作によって発生するセキュリティイベントも処理します。

[コントロールパネル] - [ドメイン] - [すべてのドメイン] ノードから、ドメインマネージャをエンタープライズに追加できます。

注：一般的なセキュリティと、マネージャ、サーバ、およびドメインの操作方法の詳細については、「**DSM** エクスプローラヘルプ」および「実装ガイド」を参照してください。

スケーラビリティ サーバ

スケーラビリティ サーバは、エージェントとドメイン マネージャの間にある **Client Automation** コンポーネントで、以下の目的に使用されます。

- 登録情報をエージェントから収集し、マネージャに渡します。
- 設定ポリシーをマネージャからエージェントへ配布します。
- エージェント データを格納します。

多数のエージェントを管理する必要がある場合、**Client Automation** は、エージェントのグループを複数のサーバに分散します。サーバは媒介となり、マネージャ間の情報を中継します。

スケーラビリティ サーバには、エージェントのデータ ファイルを格納するディレクトリおよびファイルがあります。エージェントがデータを収集すると、**DSM** エンジンによる処理のため、サーバに保存されます。エンジンはスケーラビリティ サーバから情報を収集し、ドメイン マネージャのデータベースに格納します。**DSM** エクスプローラでエージェントの設定ポリシーが 変更されると、同様の通信が行われます。

ホスト

Remote Control ホスト エージェントを環境内のターゲット コンピュータに展開すると、それらのコンピュータをリモートで制御できるようになります。**Remote Control** ホストは、**Remote Control** ビューア コンポーネントを使用して制御するコンピュータ上で実行します。ビューアはホストに接続して、セッションを確立します。ホストはビューアから送信されるキーボードおよびマウスの入力に応答し、デスクトップのライブ イメージをビューアに返します。

インフラストラクチャ展開ウィザードを使用すると、エンタープライズ内の **Client Automation** エージェント（ホスト エージェントを含む）およびスケーラビリティ サーバを展開できます。ウィザードの指示に従って、順を追って手順を実行できます。

注：詳細については、「**DSM** エクスプローラ ヘルプ」の「展開」および「実装ガイド」を参照してください。

ビューア

Remote Control ビューアによって、リモート コンピュータを表示および制御することができます。ビューアを使用すると、マウスおよびキーボードを使用して、ホスト コンピュータに接続し、ホスト コンピュータのデスクトップを制御できます。リモート コンピュータ間でファイルを転送できます。また、複数のホストを同時に表示および制御することもできます。ただし、アクセスの範囲は、**Remote Control** マネージャによって定められる集中管理ユーザ権限に従います。これはセキュリティの維持に役立ちます。

Remote Control ビューアは、**DSM** エクスプローラ、または **Windows** の [スタート] メニューからスタンドアロンとして使用できます。これは、タスクバーの [**Remote Control** ホスト] アイコン、またはビューア コンポーネントがホストと共にインストールされている場合はシステム トレイからも使用できます。

注： **Program Files¥CA¥DSM¥bin** フォルダにある **RCViewer.html** をダブルクリックして、**Web** 版のビューアである **RC Web Viewer** インターフェースを起動することもできます。

グローバル アドレス帳

グローバルアドレス帳（**GAB**）には、**Remote Control** マネージャによって作成されるアドレス帳があります。ユーザのコンピュータおよびプロトコル情報は、ビューア ペインのグローバル アドレス帳にダウンロードされます。グローバル アドレス帳は **Remote Control** マネージャからダウンロードされ、ビューアのユーザがアドレス帳の親グループからのアクセス権限を継承するコンピュータのみを含むようフィルタ処理されます。**Remote Control** マネージャの管理者のみがアドレス帳を編集することができます。

注：ポート番号は、グローバル アドレス帳に自動的に入力されますが、ローカル アドレス帳には手動で入力します。コンピュータのプライマリ ネットワーク アドレスが変更されると、グローバル アドレス帳を更新するために、ホストは変更をマネージャに送信します。

グローバルアドレス帳はビューアのルート ノードから使用することができます。**DSM** エクスプローラから使用可能な [グローバル アドレス帳のプロパティ] ダイアログ ボックスを使用して、グローバル アドレス帳のユーザを定義できます。

関連項目：

[ユーザ](#) (P. 22)

[グローバル アドレス帳の設定](#) (P. 40)

[ユーザおよびユーザ権限の追加](#) (P. 42)

ローカル アドレス帳

ローカル アドレス帳 (LAB) は、個人用アドレス帳です。アドレス帳には、各コンピュータに関する情報が、ユーザが定義するカスタマイズされたアドレス帳の集合として格納されています。コンピュータを管理するには、アドレス帳階層を作成します。Remote Control ビューアの [ローカル アドレス帳] ウィンドウを使用して、コンピュータを追加、削除、および検索することができます。

cUtilCmd コマンドライン ツールを使用して、ローカル アドレス帳をインポートおよびエクスポートすることもできます。アドレス帳は、XML ファイル形式で保存されています。アドレス帳のデータをインポートすると、既存のローカル アドレス帳にデータがマージされるか、またはローカル アドレス帳が置き換えられます。

注：アドレス帳の暗号化フィールドの内容はローカル コンピュータに対してロックされているので、セキュリティを低下させずにアドレス帳の内容をユーザ間で共有することができます。

関連項目：

[ユーザ](#) (P. 22)

リプレイヤ

Remote Control リプレイヤ コンポーネントでは、以前に記録されたホストのセッションを再生できます。リプレイヤは **Client Automation** インストールプロセス中にインストールされ、**Remote Control** ビューアから使用できます。また、リプレイヤは、**replayer *.urc** ファイルをダブルクリックして、**Windows** のエクスプローラから起動することもできます。

注： **Program Files¥CA¥DSM¥bin** フォルダにある **RCReplay.html** をダブルクリックして、**Web** 版のリプレイヤである **RC Web** リプレイヤ インターフェースを起動することもできます。

ツール

以下のコマンドライン ツールを使用すると、さまざまな **Remote Control** 管理タスクを行うことができます。

gui_rcLaunch

アドレス、ユーザ クレデンシヤル、およびさまざまなオプションを指定する場合に、**Remote Control** ビューアを起動します。また、レガシー ホストを処理したり、リプレイヤを起動する場合にも使用することができます。

注： **Linux** では **gui_rcLaunch** コマンドはサポートされていません。

注： 詳細については、「**DSM** エクスプローラ ヘルプ」の「**Remote Control** ビューア」および「**Remote Control** リプレイヤ」のセクションを参照してください。

rcUtilCmd

ローカル アドレス帳をエクスポートおよびインポートします。

注： **Linux** および **Mac OS X** では、このプログラムは **Remote Control** によって内部でのみ使用されます。

rcReplayExport

Remote Control 独自の ***.urc** ファイルを共通のビデオ形式に変換します。

第 3 章：実装

この章では、Client Automation の Remote Control コンポーネントの詳細についてより深く理解するために、アセットをリモート管理する 2 つの効率化された実装モデルとシナリオについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[集中管理 Remote Control 設定](#) (P. 20)

[スタンドアロン Remote Control 設定](#) (P. 27)

[ローカルアドレス帳のインポートおよびエクスポート](#) (P. 33)

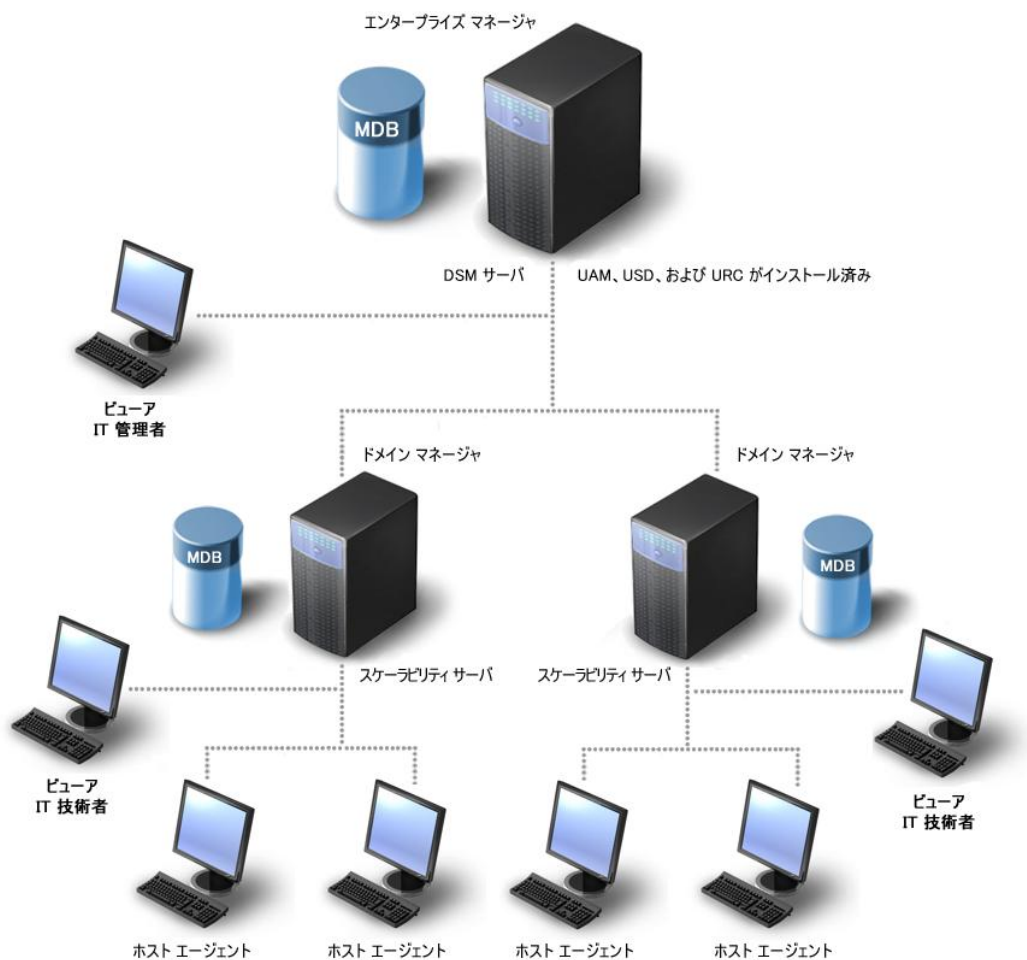
[スマートカード認証](#) (P. 35)

集中管理 Remote Control 設定

集中管理環境とは、Remote Control エンタープライズ マネージャが、設定ポリシー、グローバルアドレス帳（GAB）、ドメイン上のホストエージェントのライセンス供与、およびユーザ権限によって、ホスト設定を制御する環境のことです。この環境は、CA Client Automation のデフォルト設定となります。

通常、集中管理されている Remote Control 設定は、以下の図に示すように、数多くのアセットおよび複数の部門や地域センターのある大企業で使用されます。

Unicenter Remote Control r11 アーキテクチャ



シナリオ

Remote Control のスケーラブルな 2 層アーキテクチャは、あらゆる大規模組織に適応できます。すべてのアセット情報が各ドメイン マネージャの場所で管理されてエンタープライズ マネージャに複製されるため、このアーキテクチャは堅牢です。

この実装モデルには、複数の部門や地方オフィスのある典型的な中小企業が反映されています。例として、隣接する 3 つの地方都市に支店を持つ、小規模ながら成長しつつある地方銀行を挙げることができます。中心的な支店は最も大きい都市にあり、銀行本店の役割も果たしています。DSM サーバおよびエンタープライズ マネージャはここに配置されており、業務のすべての側面を集中管理し、すべての支店を監視できるようになっています。

その他の 2 都市それぞれに、2 つの支店があります。物理的には、各都市の 2 つの支店間の距離は、2 つの隣接する都市間の距離よりも近いいため、各都市に 1 つのスケーラビリティ サーバおよびドメイン マネージャを配置することにしました。2 台のスケーラビリティ サーバとドメイン マネージャが、それぞれの階層に属する毎日のタスクを管理します。実際には、各ドメイン マネージャは、ホストエージェントがインストールされている 3 台以上の PC またはワークステーションを管理します。通常、銀行には 5 台または 6 台の銀行用端末装置があり、複数の融資担当者、および 1 人の支店長が常駐し、副支店長がいる場合もあります。

明らかに、このシナリオは非常に単純です。数 100 または数 1000 のエージェントがある非常に大規模な企業では、ローカルセキュリティを使用するように設定された集中管理エージェントがいくつか存在する場合があります。また、いくつかのスタンドアロン リモート コントロールユニットがある場合もあります。通常、大企業では Wake-on-LAN テクノロジー、さらにはスマート カード認証が使用されています。

注： Remote Control の導入の詳細については、「実装ガイド」を参照してください。

ユーザ

このシナリオの IT 管理者は、セキュリティ要件の定義およびすべての IT アセットの管理に対する全体的な責任を持ちます。Remote Control コンポーネントでは、企業全体の管理を効率化するポリシー ベースの集中管理および広範なセキュリティ機能が提供されています。これにより、IT 管理者は、リモート コンピュータにアクセスしたり、リモート コンピュータを制御、表示、管理、および変更することができます。

IT 技術者は、企業の IT アセットのサブセットの日常的な管理およびメンテナンスを担当しています。IT 管理者がすべての IT アセットに接続することができる一方、IT 技術者は、責任範囲内の IT アセットにのみ接続することができます。Remote Control は、エージェント ポリシーの設定およびアドレス帳の使用によりアクセスを決定します

最後に、ホスト ユーザは、適切なポリシーが有効になっている場合にリモート接続が許可されるかどうかを決定することができます。

注：Remote Control の導入の詳細については、「[実装ガイド](#)」を参照してください。

関連項目：

[集中管理環境での設定](#) (P. 39)

[グローバルアドレス帳](#) (P. 15)

[ローカルアドレス帳](#) (P. 16)

Wake-On-LAN

Client Automation では Wake-On-LAN (WOL) 機能を使用して、異なる時間帯にある、スイッチがオンになっていないリモート ホスト コンピュータを起動して接続できます。Wake-on-LAN 機能は単一のコンピュータ、一連のコンピュータ、およびコンピュータ グループで使用可能です。

注：電源を切ったコンピュータを起動するには、エージェントが同じサブネット上にある必要があります。

DSM エクスプローラから、以下のアクションを実行することができます。

- 単一の PC にウェイクアップを実行してその PC への接続を確立する
- PC のグループ全体を起動して（たとえば、世界中のリモート オフィス ロケーション）、複数のコンピュータをリモート制御します。

Remote Control ビューアから、グローバル アドレス帳内の単一の PC をウェイクアップ、開始、および制御します。ただし、リモート制御設定ポリシーおよび Register WOL 情報を有効にして、WOL をサポートするコンピュータをグローバル アドレス帳から遠隔起動する必要があります（この設定はデフォルトです）。そうでない場合、WOL は DSM エクスプローラからのみ使用可能です。

注：DSM エクスプローラから 1 台以上のリモート コンピュータを起動する方法の詳細については、「[DSM エクスプローラ ヘルプ](#)」を参照してください。

リモート コンピュータの起動

Remote Control ビューアからリモート コンピュータを起動し、およびリモート コンピュータに接続することができます。

リモート コンピュータを起動するには、以下の手順に従います。

1. グローバルアドレス帳、[お気に入り] フォルダ、または [最近使用したもの] フォルダ内のコンピュータをダブルクリックします。

または、コンピュータを右クリックして、[開く] をクリックします。

[接続設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [接続] タブのそれぞれのフィールドで、接続タイプ、アドレス、およびユーザ名を指定します。
3. [詳細設定] タブをクリックし、[起動] をクリックします。

注：[起動] ボタンがビューアに表示されない場合には、WOL 情報は GAB に登録されません。

指定したコンピュータに対して Wake-on-LAN 情報が使用可能な場合、Remote Control は、Wake-on-LAN (WOL) 機能を使用してホスト コンピュータに接続を試みます。このプロセスの間に、通常の接続ステータス メッセージが表示されます。

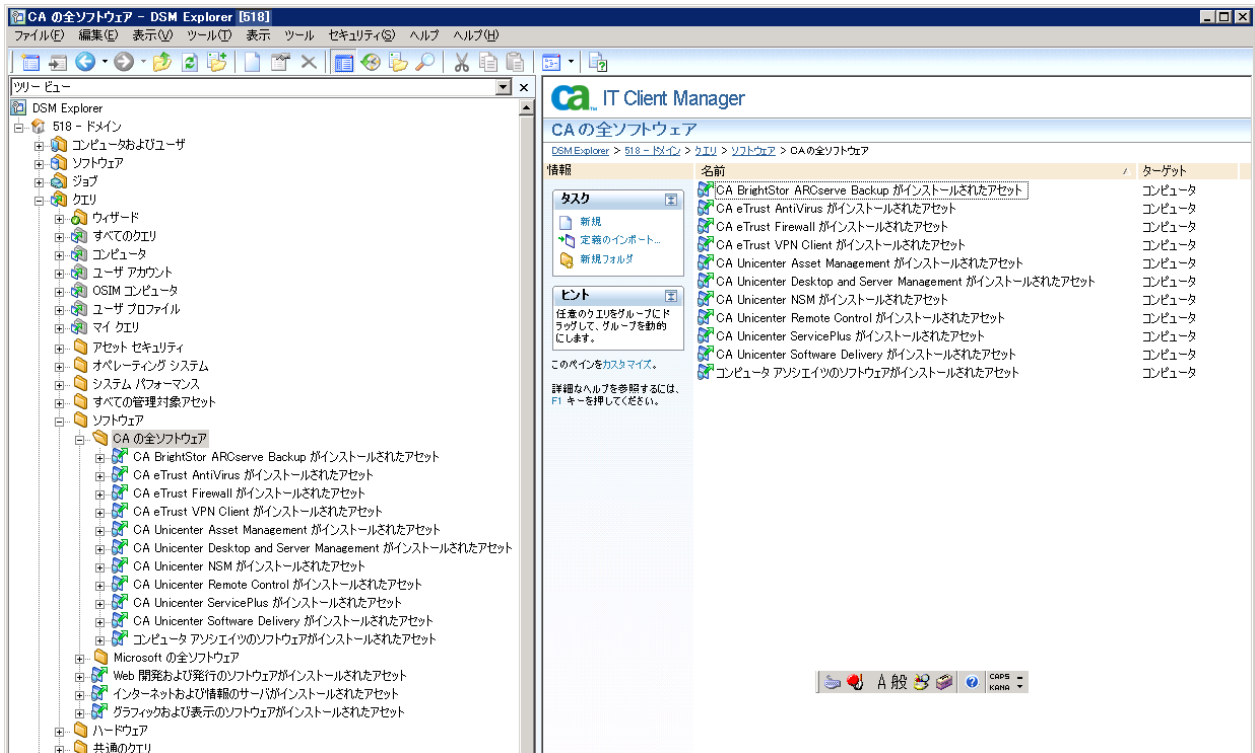
注：[起動]の代わりに[接続]をクリックして接続できなかった場合、ビューアによってこの接続が失敗した理由が判別できます。IP アドレス/DNS 名が有効であるにもかかわらず、ホストに接続できず接続に失敗する場合には、接続ステータス メッセージによって、起動と同じ機能を持つ以下のリンクをクリックするように促されます。「ここをクリックしてコンピュータを遠隔起動し、再度接続してください。」

クエリ

データベースが含まれるすべてのシステムでは、いつでもデータベースから情報を取得する必要があります。このプロセスは、クエリと呼ばれます。たとえば、クエリは、以下の項目の作成の基礎として使用することができます。

- アセットのグループおよびこれらのアセットのメンテナンス
- ポリシー
- DSM レポーターを使用したレポート

Client Automation には、「Remote Control がインストールされたアセット」を含む数多くの定義済みクエリが備わっており、この例に示すように、[すべてのクエリ]、[ソフトウェア]、または[CAの全ソフトウェア]サブフォルダからアクセスできます。



分類を選択し、タスク ポートレットの「新規」をクリックすると、新規クエリを作成することができます。

注：リモート コントロールセッション レポートの作成の詳細については、「DSM レポーター ヘルプ」を参照してください。

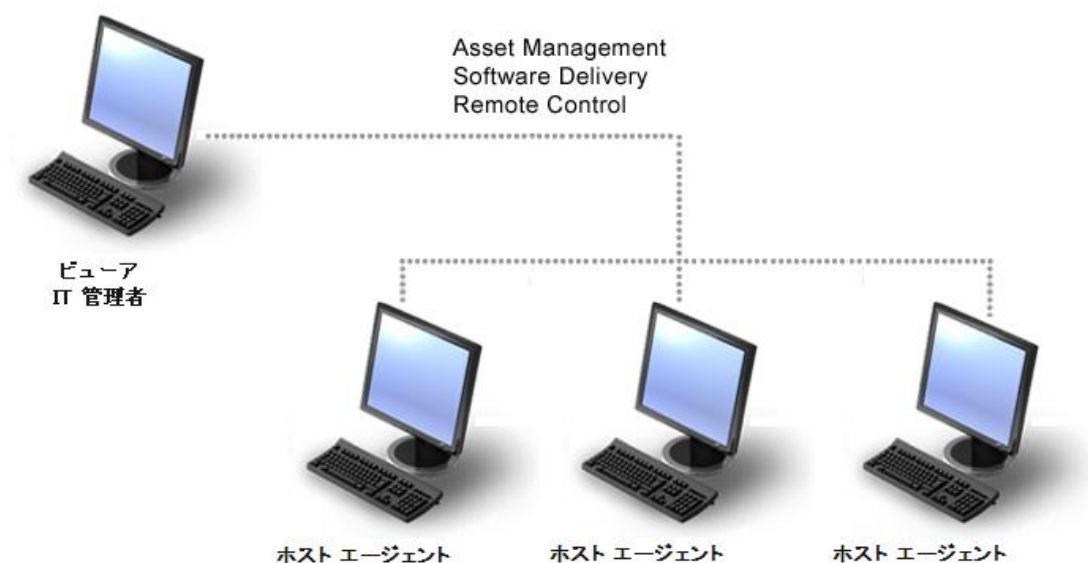
スタンドアロン Remote Control 設定

スタンドアロン環境とは、ホストおよびビューア コンピュータのユーザがすべての設定、プロパティ、および Remote Control のライセンス供与を管理する環境のことです。これはスタンドアロン Remote Control エージェントインストールによって設定できます。手動でインストールするには、個別のインストールウィザード `setup_rc` を直接呼び出す必要があります。

注：詳細については、「*Implementation Guide*」を参照してください。

通常、スタンドアロン Remote Control 設定は、少数のアセットを所有する小規模な企業で使用されます。

CA IT Client Manager



シナリオ

この実装モデルには、限られたアセットを所有する典型的な小規模かつ独立採算制の会社が反映されています。例として、事業主が IT 管理者、社長、最高財務責任者、および人事管理者を兼ねるビデオ レンタルショップや書店などの小売店を挙げることができます。ホスト エージェントがインストールされている PC またはワークステーションの台数は少なく、少数のレジスタ端末、経理および受注用の PC、および事業主用のラップトップに限定されています。

ユーザ

このシナリオの IT 管理者は、セキュリティ要件の定義およびすべての IT アセットの管理に対する全体的な責任を持ちます。エージェント ポリシーの設定およびローカル アドレス帳の使用によって、アクセスが決定されます。また、IT 管理者は、ユーザが事前設定されたスタンドアロン ホストを展開したり、アドレス帳および権限をインポートすることができます。

前述のように、ホスト ユーザは、適切なポリシーが有効になっている場合にリモート接続が許可されるかどうかを決定することができます。

注： Remote Control の導入の詳細については、「実装ガイド」を参照してください。

ユーザが事前設定されたスタンドアロン ホストを展開する方法

Windows でのみ、Microsoft Installer (MSI) を使用して Unified Security および Local Security (CA 帰属) セキュリティ プロバイダ用にユーザが事前設定された Remote Control スタンドアロン ホストを展開することができます。

これらのセキュリティ プロバイダの事前設定済みユーザが定義されるようにインストール イメージを設定するには、インストール メディア上の以下のファイルを変更する必要があります。

[/パス]¥Program Files¥CA¥DSM¥bin¥rcLocalSecurityConfig.xml

Windows でデフォルトで使用される Local Security プロバイダを設定します。

[/パス]¥Program Files¥CA¥DSM¥bin¥rcNTSecurityConfig.xml

Windows の統合セキュリティ プロバイダを設定します。

XML 設定ファイルはインストール メディア上で圧縮されており、直接編集することができません。そのため、ユーザが事前設定されたスタンドアロン ホストを展開するには、以下を実行する必要があります。

1. 関連する XML ファイルを抽出します。
2. 事前設定されたユーザを追加して、XML ファイルの defaultusers パラメータを変更します。
3. 抽出されたイメージからホスト エージェントを展開します。

XML ファイルの抽出

MSI の管理者によるインストールを実行して、インストール メディアから XML 構成ファイルを抽出することができます。

XML ファイルを抽出するには、以下を実行します。

1. コマンドライン ウィンドウを開きます。
2. インストール DVD の WindowsProductFiles_x86¥AgentRC フォルダにディレクトリを変更します。
3. 以下のコマンドを実行します。

```
MSIExec /a AgtRC.msi
```

インストール ウィザードが表示されます。

4. 抽出されたファイルの適切な場所を入力してください。
5. [完了] をクリックします。

編集する必要がある XML ファイルは、Windows XP、Windows Vista、Windows Server 2003、および Windows Server 2008 の設定ファイルの [パス]¥Program Files¥CA¥DSM¥bin に抽出されます。

関連項目：

[ビューアおよびホスト プロパティの表示/非表示の制御](#) (P. 50)

[Remote Control のカスタマイズ](#) (P. 49)

XML ファイルの defaultusers パラメータの変更

プロバイダの事前設定済みユーザを追加するには、抽出された XML ファイルの共通の paramsection 内の defaultusers パラメータを変更する必要があります。

インストール イメージの XML ファイルを変更するには、以下を実行します。

1. 共通の paramsection を見つけます。

以下は、Windows のセキュリティ設定ファイル (rcNTSecurityConfig.xml) のコピーです。

```
<configuration>
<allusers>
<paramsection name="itrm">
<paramsection name="rc">
<paramsection name="security">
<paramsection name="providers">
<paramsection name="common">
<attribute name="managed">local</attribute>
<parameter name="defaultusers" value="{winnt:SID=S-1-5-32-544}">
<parameterinfo name="pi_defaultusers">
<attribute name="flags">1</attribute>
<attribute name="desc">Security: List of default users</attribute>
<attribute name="type">string</attribute>
</parameterinfo>
</parameter>
<parameter name="dll" value="rcCommonSecurity">
<parameterinfo name="pi_dll">
<attribute name="flags">1</attribute>
<attribute name="desc">Security: Shared library providing common security
functionality.</attribute>
<attribute name="type">string</attribute>
</parameterinfo>
</parameter>
<parameter name="displayname" value="Unified">
<parameterinfo name="pi_displayname">
<attribute name="flags">1</attribute>
<attribute name="desc">Security: Display name of this security
provider</attribute>
<attribute name="type">string</attribute>
</parameterinfo>
</parameter>
</paramsection>
</configuration>
```

2. defaultusers パラメータのデフォルト値を変更します。エントリは、上の例で示すように、ユーザ名のカンマ区切りリスト、または NT ユーザセキュリティ識別子である必要があります。カンマの後に空白を入れないようにしてください。

完了すると、Remote Control をインストールすることができます。デフォルトユーザは、ホストがインストールされたときに自動的に作成されます。

例: ローカル コンピュータ上の事前設定ユーザ「one」、「two」、および「three」、およびドメイン アカウント「helpdesk」。

```
<configuration>
<allusers>
<paramsection name="itrm">
<paramsection name="rc">
<paramsection name="security">
<paramsection name="providers">
<paramsection name="common">
<attribute name="managed">local</attribute>
<parameter name="defaultusers" value="winnt:[DOMAIN]/helpdesk,one,two,three">
<parameterinfo name="pi_defaultusers">
<attribute name="flags">1</attribute>
<attribute name="desc">Security: Shared library providing common security
functionality.</attribute>
<attribute name="type">string</attribute>
</parameterinfo>
<parameter name="dll" value="rcCommonSecurity"><parameterinfo name="pi_dll">
<attribute name="flags">1</attribute>
<attribute name="desc">Security: Name of dll providing NT security.</attribute>
<attribute name="type">string</attribute>
</parameter>
<parameter name="displayname" value="Unified">
<parameterinfo name="pi_displayname">
<attribute name="flags">1</attribute>
<attribute name="desc">Security: Display name of this security provider</attribute>
<attribute name="type">string</attribute>
</parameterinfo>
</parameter>
</paramsection>
</configuration>
```

Local Security プロバイダでは、同様に、ユーザのカンマ区切りリストがサポートされています。ローカルセキュリティ プロバイダ ユーザを作成する場合、ユーザ名はユーザのパスワードとしても使用されます。システム所有者は、インストール後にこれらのパスワードを変更してシステムを保全する必要があります。

スタンドアロン ホストの展開

AgtRC.msi をダブルクリックして、抽出されたイメージからスタンドアロン ホスト エージェントを展開することができます。

ローカル アドレス帳のインポートおよびエクスポート

ローカルアドレス帳 (LAB) には、Remote Control ビューアで表示または制御可能なコンピュータに関する詳細が保存されています。オプションとして、ログインクレデンシャルに関する詳細を組み込むこともできます。インポート/エクスポート機能である `rcUtilCmd.exe` を使用すると、セキュリティを低下させずにローカルアドレス帳の内容をユーザ間で共有することができます。

より具体的には、ローカルアドレス帳は、特定のユーザに関連付けられている XML ファイルで構成されています。ファイルの名前を変更したり、ファイルの場所を変更した場合、ファイルへはアクセスできなくなります。`rcUtilCmd.exe` は、ファイルを新しい場所で使用できるように、必要な変更をファイルに加えます。また、XML ファイル内のログインクレデンシャルは、その時点でログオンしているユーザに固有のキーを使用して、暗号化されます。`rcUtilCmd.exe` ではこれらの詳細の転送が許可されていないため、アドレス帳が別のユーザへエクスポートされると、これらの詳細は復号化できず、空白として表示されます。インポートされたアドレス帳では、既存のローカルアドレス帳にそのデータがマージされます。必要に応じて、ローカルアドレス帳をインポートされたアドレス帳で置き換えることができます。

rcUtilCmd - ローカル アドレス帳のエクスポート

`export` コマンドを使用すると、ローカルアドレス帳をエクスポートすることができます。

コマンドの構文は、以下のとおりです。

```
export [exportedbook]
```

exportedbook

エクスポートするファイルの名前を指定します。このファイルは、現在ログオンしているユーザのローカルアドレス帳です。デフォルトは `exportedbook` です。

`rcUtilCmd.exe` プログラムは、デフォルト ファイル `rcExportedLAB.xml` を、現在の作業ディレクトリに作成します。

rcUtilCmd コマンド - エクスポートされたアドレス帳のローカル アドレス帳へのインポート

import コマンドを使用すると、エクスポートされたアドレス帳をインポートすることができます。

コマンドの構文は、以下のとおりです。

```
import [-i exportedbook] [-r] [addressBookName] [addressBookDescription]
```

exportedbook

以前エクスポートしたアドレス帳に使用した名前と同じ名前を指定します。

注：.xml サフィックスのない名前を指定できます。

-r

宛先帳にすでに存在しているコンピュータを置換するよう指定します。指定しない場合、置換定義は無視されます。

addressBookName

作成するか、またはローカル アドレス帳に追加する新しいアドレス帳の名前を指定します。

addressBookDescription

新しいアドレス帳の説明を指定します。

rcUtilCmd.exe プログラムは *exportedbook* を読み取り、*addressBookName* へのコンテンツの追加を試行し、必要に応じてコンテンツを作成します。*addressBookName* を指定しない場合、コンテンツはローカル アドレス帳のルートにある「インポート済みアドレス帳」という名前のグループに追加されます。

インポートされたアドレス帳にネストされたアドレス帳が含まれる場合、この構造は宛先ローカルアドレス帳に保持され、ネストされたコンテンツがインポートされます。

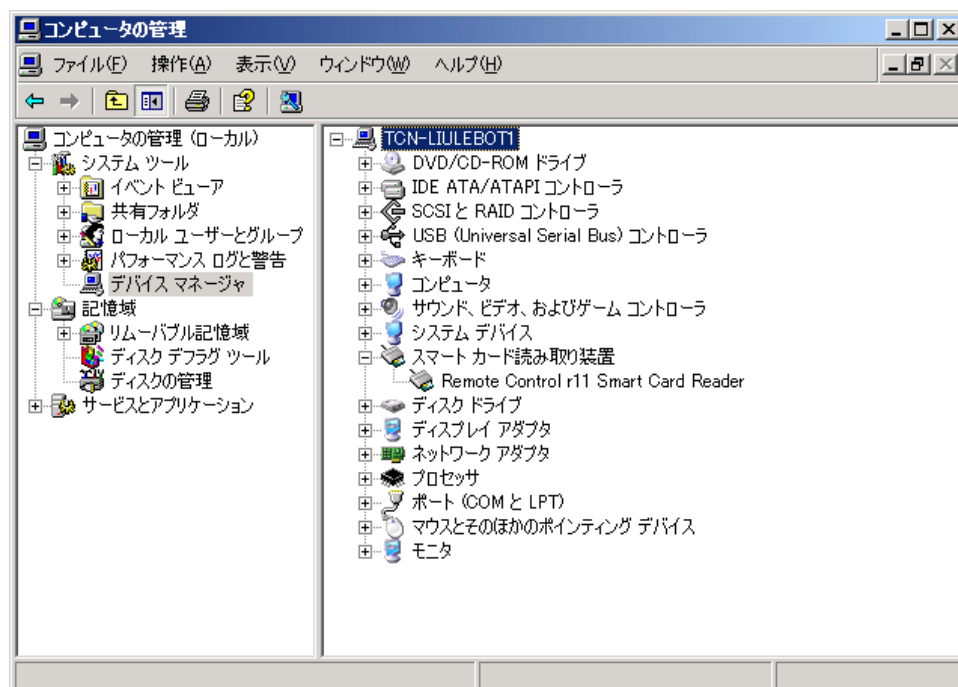
注：インポートは、常に、現在ログオンしているユーザのローカルアドレス帳に対して実行されます。

スマート カード 認証

デジタル証明書は、ユーザの名前、組織、および他の識別情報を含むスマート カードで保存できます。このようなスマートカードは、電子メール、Web サーバアクセス、ネットワーク アクセス、およびシステム ログインのようなセキュアでミッションクリティカルなアプリケーションで使用されます。

Client Automation では、スマート カードリーダーがサポートされており、Remote Control ビューアのユーザが自らのローカル スマート カードを使用してリモート ホスト コンピュータのオペレーティング システムにログオンを試行する場合に、Remote Control は、現在スマート カード認証をリダイレクトすることができます。

必要に応じて、新規のスマート カードデバイスがホスト コンピュータに自動的にインストールされます。それ以降は、セッションが接続されていない場合も、デバイスはシステムのデバイス マネージャから常に確認することができます。



付属しているビューアがデバイス名に指定されていません。仮想スマート カードデバイスがインストールされている場合でも、ビューアのユーザが初めてスマート カードリーダーに接続するまでは、このデバイスはスマート カードアプリケーションに表示されません。そのため、Remote Control ビューアがリーダーを最初にアクティブにするまで、リーダーは標準のスマート カード挿入 UI に表示されません。コンピュータが再起動されるか、またはデバイスが手動で削除されるまでデバイスは表示されたままとなります。

注： 詳細については、「*Implementation Guide*」を参照してください。

スマート カードを使用したリモート コンピュータへの接続

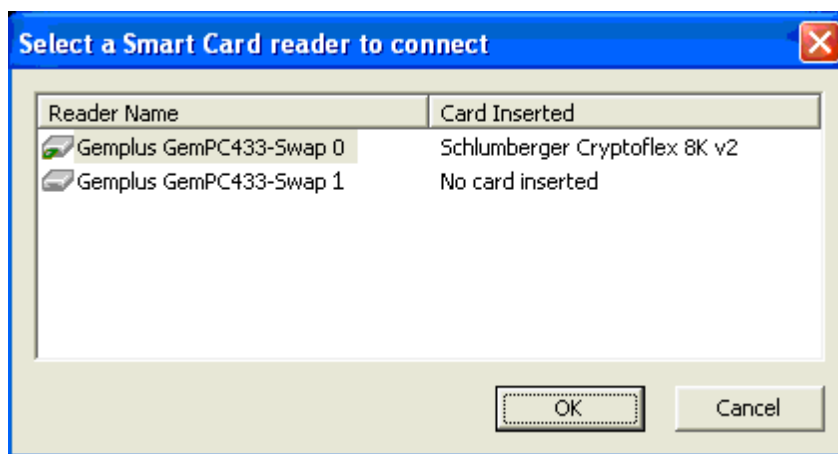
Windows の場合、スマート カードを使用して Remote Control ビューアからリモート コンピュータに接続することができます。

注：リモート ホスト コンピュータでは、スマート カード リダイレクトがサポートされている必要があります。つまり、[Smart Card のリダイレクトを有効化] 設定ポリシーが True に設定されている必要があります。詳細については、「DSM エクスプローラ ヘルプ」の「設定ポリシー」を参照してください。

スマート カード リーダに接続するには

1. Remote Control ビューアにアクセスします。
2. 特定のリモート ホスト コンピュータに接続します。
3. [セッション] コンテキスト メニューの [Smart Card の接続] をクリックするか、[Smart Card] ツールバー ボタンをクリックします。

1 つのリーダーのみがインストールされている場合は、このリーダーが自動的に選択されます。複数のスマート カード リーダがインストールされている場合は、[接続する Smart Card リーダを選択します] ダイアログ ボックスが表示されます。



4. リモート ホスト コンピュータへ接続するためのスマート カード リーダを選択します。

スマート カード リーダが接続されていることを示すため、ビューア GUI が変更されます。[Smart Card の切断] メニュー オプションが有効となり、これに対応するツールバー ボタン がオンになります。

5. スマート カード リーダが接続された後、スマート カードを挿入します。

スマート カードがローカルに挿入された場合、ホスト コンピュータのアプリケーションは通常と同様に挿入イベントを受信します。

スマート カード リーダからの接続解除

スマート カード リーダから接続解除するには、[セッション] コンテキスト メニューの [Smart Card の切断] をクリックするか、オンになっている [Smart Card] ツールバー ボタンをクリックします。

スマート カード デバイスは即時に切断されますが、デバイス ドライバは削除されず、デバイスは非表示になりません。 スマート カード リーダを使用しているアプリケーションに対しては、カードが挿入されていないリーダとして仮想デバイスが表示されます。

第 4 章：Remote Control の設定

環境の設定を最適にするには、インストールの前に、スタンドアロン環境および集中管理環境を設定します。

エンタープライズ内のユーザのアクセス権限および関連権限は、DSM エクスプローラのアドレス帳の設定によって管理されます。[Remote Control 権限] ペインから [ユーザの追加] タスクを使用して、アクセス権限を付与するコンピュータを含むアドレス帳を作成します。コンピュータにアクセスするユーザまたはグループを追加した後に、ユーザまたはグループに権限を設定すると、さらにアクセスを制御できます。

注：本章は、Remote Control の上級ユーザを対象にしています。無効な情報を入力すると、製品が正常に動作しないことがあります。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[集中管理環境での設定](#) (P. 39)

[スタンドアロン環境での設定](#) (P. 45)

集中管理環境での設定

Remote Control 内のリモート マシンへのアクセスまたは制御はユーザ権限を使用して管理されます。ユーザ権限は、アドレス帳によって、個々のコンピュータではなく、コンピュータのグループに対して設定されます。各アドレス帳では、管理者は、各ユーザがグループのコンピュータ上で実行できる操作（表示、チャット、ファイルの送信など）を指定できます。デフォルトでは、アドレス帳は親の権限を継承しますが、権限を追加したり、変更することができます。

関連項目：

[ユーザ](#) (P. 22)

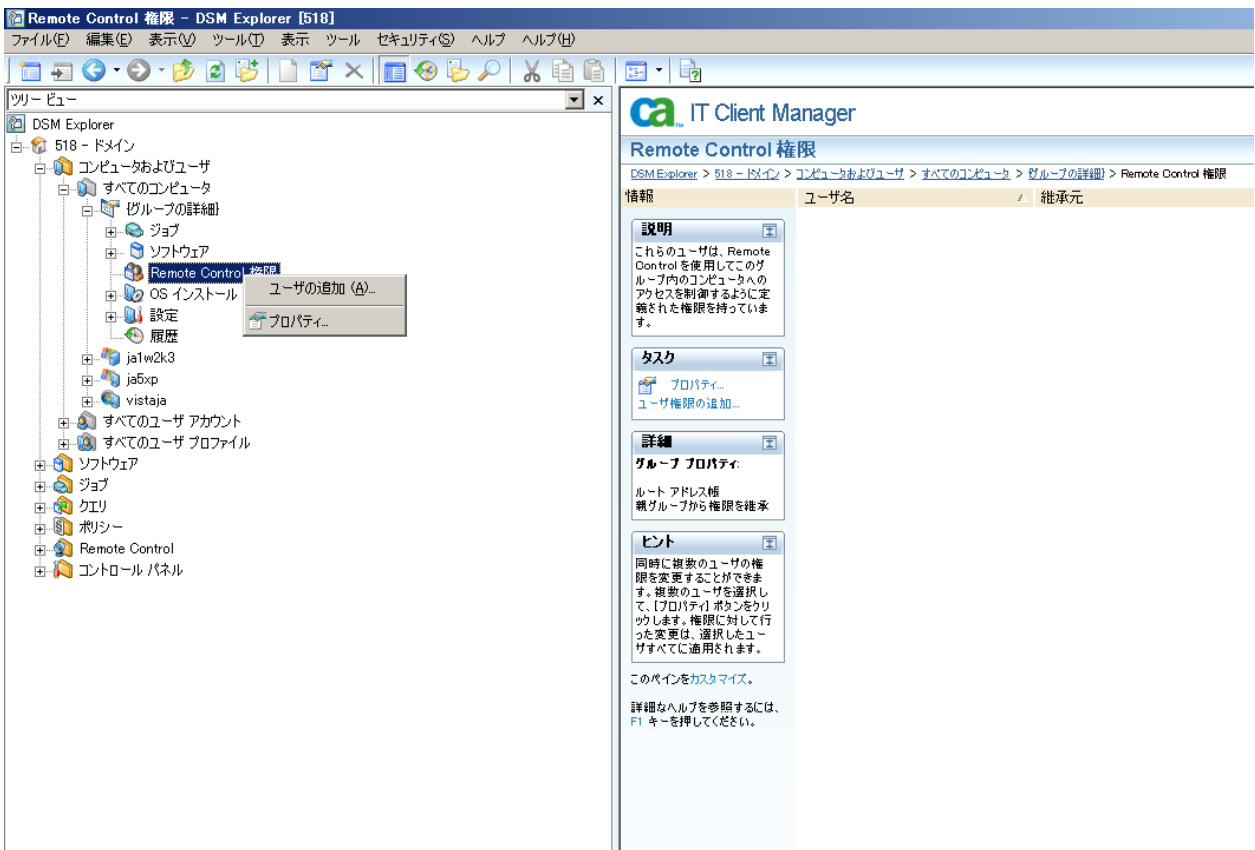
グローバルアドレス帳の設定

[アドレス帳のプロパティ] ダイアログ ボックスを使用して、グローバルアドレス帳（GAB）を作成および設定することができます。

新しいグローバルアドレス帳グループを作成するには、以下の手順に従います。

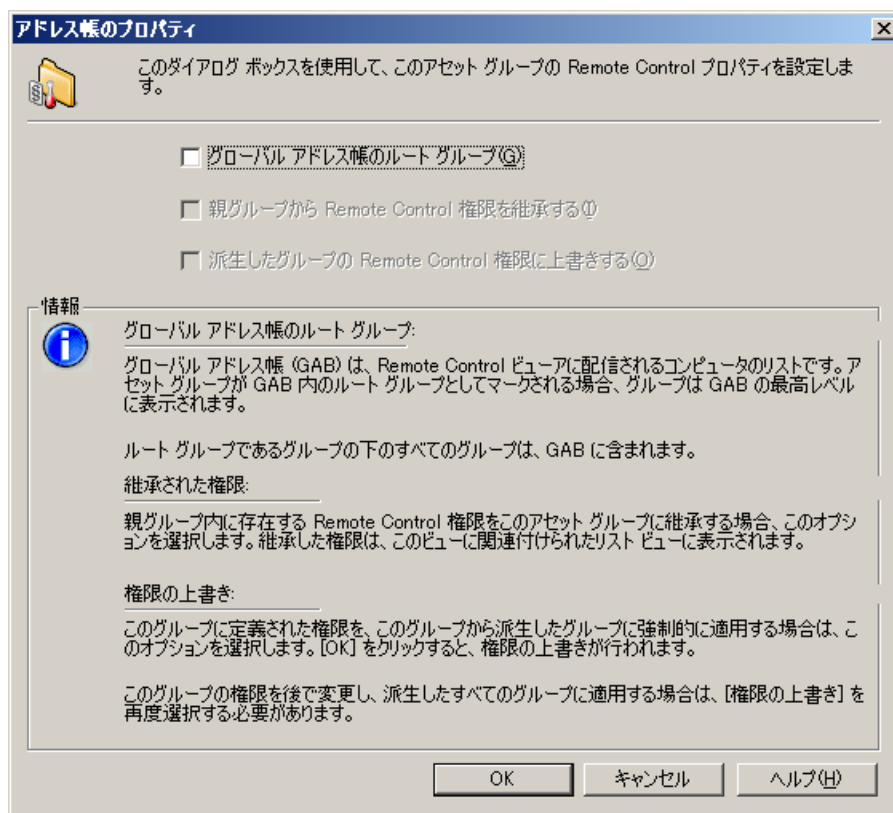
1. DSM エクスプローラで、該当するコンピュータ グループの [グループの詳細] サブノードの [Remote Control 権限] ノードを右クリックします。

コンテキストメニューが表示されます。



2. [プロパティ] をクリックします。

[アドレス帳のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。



3. [グローバル アドレス帳のルート グループ] オプションを選択します。

ルート グループおよびそのメンバが、グローバル アドレス帳に追加されます。

4. 必要に応じて、[親グループから Remote Control 権限を継承する] オプションを選択します。
5. 必要に応じて、[派生したグループの Remote Control 権限に上書きする] オプションを選択します。
6. [OK] をクリックします。

新しいグローバル アドレス帳グループが作成されます。

コンピュータの追加や削除など、アセット グループに対するその後の変更は、グローバル アドレス帳に反映されます。

[アドレス帳のルート権限] ペインには、グローバル アドレス帳のルートに定義されるすべてのユーザ権限が表示されます。グローバル アドレス帳の一部である各アセット グループは、これらの権限をデフォルトで継承します。

ユーザおよびユーザ権限の追加

リモート コントロール セッションはユーザ権限とアドレス帳とで管理されます。そのため、それぞれのユーザ アカウントまたはアセット グループに対して、ユーザおよびユーザ権限を追加する必要があります。

新しいユーザ権限をアドレス帳グループに追加するには、以下の手順に従います。

1. [グループの詳細] の [Remote Control 権限] ノードを右クリックし、[ユーザの追加] をクリックします。

また、[Remote Control 権限] ペインのタスク ポートレットの [ユーザ権限の追加] をクリックします。

[ユーザ権限の追加] ダイアログ ボックスが表示されます。

2. 使用可能なディレクトリから、セキュリティ権限を選択してください。

注： 設定されていれば、ADS、LDAP、および NDS ディレクトリのユーザ/グループを追加できます。

3. セキュリティ プリンシパル（ユーザまたはグループ）を参照し、1つ以上を選択します。

選択したセキュリティ プリンシパル（たとえば、管理者など）が [名前] リストに追加され、セキュリティ プリンシパルの権限の説明が [説明] フィールドに表示されます。

4. [追加] をクリックし、選択したユーザをセキュリティ プリンシパルのリストへ追加します。

5. [OK] をクリックします。

選択されたユーザは、指定したコンピュータ グループのすべてのコンピュータにアクセスできます。

注：最初にユーザを追加して権限を割り当てたときに、新しいグローバル アドレス帳グループが実際に作成されます。

ホスト Remote Control 権限の設定

管理者として、現在のアセット グループ内のコンピュータに対してユーザが実行できるリモート コントロール操作を定義または変更できます。たとえば、あるユーザ グループに、すべてのホスト コンピュータに対する排他コントロールおよびセキュア コントロールの権限を与え、ほかのユーザ グループには、共有コントロールおよびチャットの権限のみを持つ企業研修ユーザ グループなど、より制限された権限を与えることもできます。ユーザが無効な権限で接続を試行すると、セッションが拒否され、表示可能な[拒否されたセッション] ペイン内の拒否セッションのリストに追加されます。

注：[拒否されたセッション] ノードおよび対応する [拒否されたセッション] ペインは、DSM エクスプローラが **Client Automation リリース 12.9** ドメインマネージャに接続されている場合にのみ使用できます。それよりも古いマネージャに DSM エクスプローラが接続されている場合、このノードは使用できません。

指定したユーザが実行できるリモート コントロール操作のタイプを設定するには、以下の手順に従います。

1. [Remote Control 権限] ペインでユーザを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
[ユーザの Remote Control 権限] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. 表示、排他コントロール、共有コントロール、チャット、ファイルの送信、レコードなど現在許可されている権限をレビューします。
3. 必要に応じて、権限を選択し、値を変更して、[変更] をクリックします。
選択された権限の値が変更されます。
4. [OK] をクリックします。
指定したユーザのリモート コントロール権限が設定されます。

拒否セッションのパージ

「パージする拒否されたセッションの経過時間」ポリシーを使用して、「拒否されたセッション」内の拒否されたセッションを自動的にパージできます。このポリシーによって、拒否されたセッションに対して、クローズされたセッションに使用する値とは別のパージ値を設定して、ユーザの企業ポリシーに適合するようにセッション保持をカスタマイズできます。

拒否されたりモート コントロール セッションのパージ方法

1. DSM エクスプローラ ツリーで、「コントロール パネル」 - 「設定」 - 「設定ポリシー」 - 「デフォルトのコンピュータ ポリシー」 - 「DSM」 - 「Remote Control」 - 「マネージャ」に移動します。

リモート コントロール マネージャ ポリシーは、右ペインに表示されます。

2. 「パージする拒否されたセッションの経過時間」ポリシーをダブルクリックします。

「プロパティの設定」ダイアログ ボックスが表示されます。

3. 「値」フィールドで、必要に応じて値を変更します。デフォルト値は **86400** 秒です。

このパージ処理はスケジュールされたセッション パージ中に行われ、「次のセッションのパージ」ポリシーによってセッション パージの規則性が制御されます。

注：このダイアログ ボックスの「値」フィールドは、最初にポリシーを封印解除した場合にのみ有効になります。

4. 「次のセッションのパージ」ポリシーをダブルクリックします。
「プロパティの設定」ダイアログ ボックスが再度表示されます。
5. （オプション）デフォルト値を変更して、「OK」をクリックします。

変更内容が保存されます。

注：これらの値の変更では、管理サーバを再起動する必要はありません。

6. 管理者の適用される値のポリシーを封印します。

注：リモート コントロール設定ポリシーの詳細については、「DSM エクスプローラ ヘルプ」の「設定ポリシー」のセクションを参照してください。

スタンドアロン環境での設定

Remote Control スタンドアロン環境では、組織内の各 Remote Control ホスト上で権限を定義することでアクセス制御を設定します。ホストに接続するユーザを設定し、スタンドアロン環境で使用するセキュリティのタイプを設定するには、
[DSM プロパティ - Remote Control] ダイアログ ボックスの [ユーザ] タブを使用します。また、ユーザの追加と削除、プロパティの表示、および権限の割り当てを行うこともできます。変更は、ただちに適用されます。

注：[ユーザ] タブは、集中セキュリティ設定ポリシーが「いいえ」に設定されている場合のみ、集中管理エージェント環境の [DSM プロパティ - Remote Control] ダイアログ ボックスから使用できます。詳細については、「DSM エクスプローラ ヘルプ」の「共通設定ポリシー」を参照してください。

ユーザの追加

[ユーザ] タブを使用して、ユーザの追加と削除、およびプロパティの表示を行うこともできます。変更は、ただちに適用されます。

新しいユーザを追加するには、以下の手順に従います。

1. [DSM プロパティ - Remote Control] ダイアログ ボックスの [ユーザ] タブで、[現在のセキュリティ プロバイダ] フィールドをクリックして、以下のオプションの 1 つを選択します。

ローカル

追加するユーザのユーザ名およびパスワードを作成できます。

統合

ローカル ネットワークの管理者によって事前に設定されたローカルおよびドメイン ユーザのリストから、ユーザを選択できます。

2. [追加] をクリックします。

Remote Control は、選択したセキュリティ プロバイダのタイプに適用されるダイアログ ボックスを表示します。

ローカル

[新規ユーザの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。続行する場合は、手順 4 に進みます。

統合

[ユーザの追加] ダイアログ ボックスがドメインのリストと共に表示されます。続行する場合は、手順 7 に進みます。

3. [ユーザの情報] フィールドに、ユーザ名、ユーザの氏名、および必要な情報を入力します。
4. パスワードを入力し、[パスワード] フィールドでパスワードを確認します。
5. [作成] をクリックします。

ユーザの説明は、[ユーザ] タブのリスト ビューに表示されます。続行する場合は、手順 10 に進みます。

6. ドメインを検索し、追加するユーザまたはユーザのグループを特定します。

注：DSM エクスプローラ ツリーを展開するたびに、ユーザ情報を待機するよう求めるメッセージが表示されます。リストはすぐに生成されます。

7. 追加するユーザまたはユーザのグループを選択します。

[追加] ボタンが有効になります。

8. [追加] をクリックします。

選択したユーザまたはユーザのグループが、[追加されるユーザ] リストに表示されます。

9. 選択内容を確認し、正しい場合は [OK] をクリックします。

[ユーザ] タブにリストの選択内容が表示されます。

10. [OK] をクリックします。

ユーザまたはユーザのグループが追加され、[ユーザ] タブにはユーザが削除されるまでユーザ情報が表示されます。

ホスト Remote Control 権限の設定

スタンドアロン環境では、ユーザに権限を割り当て、たとえば、ファイルの送受信、チャット機能へのアクセスなど、ユーザがホストで実行できる操作を定義できます。

ユーザ権限の設定方法

1. [DSM プロパティ - Remote Control] ダイアログ ボックスの [ユーザ] タブから、権限を設定するユーザを選択します。

選択した後、**Remote Control** では、[プロパティ]、[権限]、および [削除] のボタンが有効になります。

注： 必ずユーザ名部分をクリックして、これらのボタンを有効にするようにしてください。

2. [権限] をクリックします。

[権限] ダイアログ ボックスに以下の列が表示され、ユーザの権限を表示したり設定したりすることができます。つまり、ユーザが実行できる操作を定義できます。

権限

権限を割り当てるために使用できる機能をリストします。

説明

その行に表示される機能の簡単な説明です。

注： [権限] ダイアログ ボックスは、スタンドアロン環境では [マイ コンピュータ] - [プロパティ] ダイアログ ボックスからも使用できます。

3. 必要な各機能のチェック ボックスのオン/オフを切り替えて権限を設定し、[OK] をクリックします。

[権限] ダイアログ ボックスが閉じ、[DSM プロパティ - Remote Control] ダイアログ ボックスの [ユーザ] タブに戻ります。

4. [OK] をクリックします。

権限の設定が保存され、[DSM プロパティ - Remote Control] ダイアログ ボックスが閉じます。

注： スタンドアロン環境では、ユーザは、1 台のコンピュータ、つまりホストに対してのみ、権限が付与されます。また、集中管理環境およびスタンドアロン環境で、ホスト機能設定のオプションセットによりこれらの権限が上書きされることがあります。

第 5 章：Remote Control のカスタマイズ

インストールの前に、環境に最適な設定を確保するため、ローカル管理のプロパティとセキュリティをカスタマイズできます。通常、カスタマイズはスタンドアロン環境にのみ必要です。プロパティ、セキュリティ、およびポリシーを制御する設定は XML ファイル（「[XML ファイルの抽出](#) (P. 30)」を参照）に保存され、これは MSI の管理者によるインストールの間に編集することができます。

注：本章は、Remote Control の上級ユーザを対象にしています。いずれのカスタマイズ手順においても無効な情報を入力すると、製品が正常に動作しないことがあります。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ビューアおよびホスト プロパティの表示/非表示の制御](#) (P. 50)

[プロパティの表示および管理の制御](#) (P. 54)

[デフォルト値の制御](#) (P. 58)

[Remote Control のダイアログ ボックスのローカライズ](#) (P. 60)

ビューアおよびホスト プロパティの表示/非表示の制御

[ビューア プロパティ] ダイアログ ボックスの [詳細] タブや [DSM プロパティ] ダイアログ ボックスの [詳細] タブの各プロパティの表示/非表示を制御できます。

プロパティの表示/非表示を制御するには、以下の手順に従います。

1. 適切な XML ファイル、rcViewerConfig.xml または rcHostConfig.xml にアクセスします。
2. 関連するパラメータのフラグ属性の値を変更します。フラグ属性の有効な値は、以下のとおりです。

0 ~ 1

いずれかの値に設定すると、プロパティは [詳細] タブに表示されません。

2 ~ 7

予約済みの値を示します。

8 ~ 9

いずれかの値に設定すると、プロパティが [詳細] タブに表示されます。

9 ~ 15

予約済みの値を示します。

例：圧縮プロパティの非表示

たとえば、ビューアのデフォルトの圧縮度設定が上書きされないようにするため、このプロパティの存在を非表示にすることができます。[詳細] タブからこのプロパティを非表示にするには、rcViewerConfig.xml ファイルで compressionstrength パラメータのフラグ属性を 0 または 1 に設定する必要があります。

```
<configuration>
<allusers>
<paramsection name="itrm">
<paramsection name="rc">
<paramsection name="viewer">
<paramsection name="managed">
<parameter name="manageripaddress" value=""><parameterinfo
name="pi_manageripaddress">
<attribute name="flags">17</attribute>
```

```

<attribute name="desc">Viewer: IP address of the viewer's management
server.</attribute>
<attribute name="type">string</attribute>
</parameterinfo></parameter>
</paramsection>
</paramsection>
.
.
</paramsection>
  </paramsection>
  </paramsection>
    </paramsection>
  </allusers>
.
.
.
<user>
<paramsection name="itrm">
<paramsection name="rc">

<attribute name="managed">local</attribute>
.
.
.
<paramsection name="general">
<parameter name="migrated" value="no"><parameterinfo name="pi_migrated">
<attribute name="flags">1</attribute>
<attribute name="desc">Viewer: Have the rcViewer settings from RC6 been
migrated</attribute>
<attribute name="type">string</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="defaultConnectionType" value="2"><parameterinfo name="pi_filter">
<attribute name="count">7</attribute>
<attribute name="string0">View</attribute>
<attribute name="string1">Stealth</attribute>
<attribute name="string2">Shared</attribute>
<attribute name="string3">Classroom</attribute>
<attribute name="string4">Exclusive</attribute>
<attribute name="string5">Secure</attribute>
<attribute name="string6">Meeting</attribute>
<attribute name="flags">9</attribute>
<attribute name="desc">Viewer: The default connection type to be used by the
viewer.</attribute>
<attribute name="type">enum</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="computername" value=""><parameterinfo name="pi_computername">
<attribute name="flags">9</attribute>
<attribute name="desc">Viewer: Optional name for this computer: defaults to netbios
name</attribute>

```

```
<attribute name="type">string</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="usealternatesmoothing" value="0"><parameterinfo
name="pi_usealternatesmoothing">
<attribute name="max">1</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">1</attribute>
<attribute name="desc">Viewer: Uses an alternate smoothing method when shrinking the
view.</attribute>
<attribute name="type">bool</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="smoothwhenshrinking" value="1"><parameterinfo
name="pi_smoothwhenshrinking">
<attribute name="max">1</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">1</attribute>
<attribute name="desc">Viewer: Uses a smoothing filter when shrinking the view in
shrink/scale to fit mode.</attribute>
<attribute name="type">bool</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="smoothwhenmagnifying" value="1"><parameterinfo
name="pi_smoothwhenmagnifying">
<attribute name="max">1</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">1</attribute>
<attribute name="desc">Viewer: Uses a smoothing filter when stretching the view in
scale to fit mode.</attribute>
<attribute name="type">bool</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="showsessiontoolbar" value="1"><parameterinfo
name="pi_showsessiontoolbar">
<attribute name="max">1</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">1</attribute>
<attribute name="desc">Viewer: Display the session toolbar during a viewer
session.</attribute>
<attribute name="type">bool</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="bandwidthlimiter" value="0"><parameterinfo
name="pi_bandwidthlimiter">
<attribute name="count">9</attribute>
<attribute name="string0">Unlimited</attribute>
<attribute name="string1">4Mbit</attribute>
<attribute name="string2">2Mbit</attribute>
<attribute name="string3">1Mbit</attribute>
<attribute name="string4">512Kbit</attribute>
<attribute name="string5">256Kbit</attribute>
<attribute name="string6">128Kbit</attribute>
<attribute name="string7">64Kbit</attribute>
```

```
<attribute name="string8">32Kbit</attribute>
<attribute name="flags">9</attribute>
<attribute name="desc">Viewer: Limits the maximum network bandwidth usage of
sessions.</attribute>
<attribute name="type">enum</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="compressionstrength" value="2"><parameterinfo
name="pi_compressionstrength">
<attribute name="count">5</attribute>
<attribute name="string0">No Compression</attribute>
<attribute name="string1">Light Compression</attribute>
<attribute name="string2">Medium Compression</attribute>
<attribute name="string3">Heavy Compression</attribute>
<attribute name="string4">Extra Compression</attribute>
<attribute name="flags">1</attribute>
<attribute name="desc">Viewer: Viewer data compression strength.</attribute>
<attribute name="type">enum</attribute>
</parameterinfo>
</parameter>
.
.
.
</parameterinfo></parameter>
</paramsection>
</paramsection>
</paramsection>
</paramsection>
</user>
</configuration>
```

関連項目：

[XML ファイルの抽出](#) (P. 30)

プロパティの表示および管理の制御

リモート コントロール ポリシー グループ ペインで、集中管理環境に使用可能な共通設定ポリシーの表示を制御することができます。これは、DSM エクスプローラ ツリーの [コントロール パネル] - [設定] - [設定ポリシー] - [デフォルト コンピュータ ポリシー] - [DSM] ノードからアクセスできます。

会社によっては、管理する必要のないプロパティもあるため、ポリシー ビューを簡素化すると効果的です。たとえば、Remote Control にはイベントの分類が多数あり、会社によってはすべてをトラックする必要がない場合があります。

DSM エクスプローラで、関連する設定ポリシーを「ローカル管理」に設定することで、プロパティを管理しないようにできます。プロパティへのアクセスを制御する方法の 1 つは、以下の例に示すように、該当するセクションで「<!--」および「-->」を使用して XML ファイルでプロパティをコメントアウトすることです。この変更は、マネージャのみで実行することができます。

注：リモート コントロール設定ポリシーの詳細については、「DSM エクスプローラ ヘルプ」の「設定ポリシー」のセクションを参照してください。

例：「ホストはリスニングを停止しました」イベントの除外

エージェント ポリシー内の一般的なイベント、「ホストは接続のリスニングを停止しました」を除外するには、左矢印、感嘆符、ダッシュ 2 個「<!--」およびダッシュ 2 個、右矢印「-->」を使用して、rcHostEventsConfig.xml ファイルの該当するセクションを行送りします。

注：エントリを削除するのではなく、設定をコメントアウトすることをお勧めします。

```
<configuration>
<allusers>
<paramsection name="itrm">
<paramsection name="rc">
<paramsection name="events">
<paramsection name="hostlogs">
<parameter name="sendeventstomanager" value="1">
<parameterinfo name="pi_sendeventstomanager">
<attribute name="max">1</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">1</attribute>
<attribute name="desc">Events (Host): Send events to the management
server.</attribute>
<attribute name="type">bool</attribute>
</parameterinfo></parameter>
```

```
</paramsection>
<paramsection name="general">
  <parameter name="hostunlocked" value="0">
    <parameterinfo name="pi_hostunlocked">
      <attribute name="max">1</attribute>
      <attribute name="min">0</attribute>
      <attribute name="flags">9</attribute>
      <attribute name="desc">Events (Host): Raise event "A host has been
unlocked".</attribute>
      <attribute name="type">bool</attribute>
    </parameterinfo></parameter>
    <parameter name="hostlocked" value="0">
      <parameterinfo name="pi_hostlocked">
        <attribute name="max">1</attribute>
        <attribute name="min">0</attribute>
        <attribute name="flags">9</attribute>
        <attribute name="desc">Events (Host): Raise event "A host has been
locked".</attribute>
        <attribute name="type">bool</attribute>
      </parameterinfo></parameter>
    <parameter name="hostrebooting" value="0">
      <parameterinfo name="pi_hostrebooting">
        <attribute name="max">1</attribute>
        <attribute name="min">0</attribute>
        <attribute name="flags">9</attribute>
        <attribute name="desc">Events (Host): Raise event "A host has initiated a
reboot".</attribute>
        <attribute name="type">bool</attribute>
      </parameterinfo></parameter>
    <!-- <parameter name="hostnotlistening" value="0"> -->
    <!-- <parameterinfo name="pi_hostnotlistening"> -->
    <!-- <attribute name="max">1</attribute> -->
    <!-- <attribute name="min">0</attribute> -->
    <!-- <attribute name="flags">9</attribute> -->
    <!-- <attribute name="desc">Events (Host): Raise event "A host has stopped listening
for connections".</attribute> -->
    <!-- <attribute name="type">bool</attribute> -->
    <!-- </parameterinfo></parameter> -->
    <parameter name="hostlistening" value="0">
      <parameterinfo name="pi_hostlistening">
        <attribute name="max">1</attribute>
        <attribute name="min">0</attribute>
        <attribute name="flags">9</attribute>
        <attribute name="desc">Events (Host): Raise event "A host has started listening for
connections".</attribute>
        <attribute name="type">bool</attribute>
      </parameterinfo></parameter>
    <parameter name="hoststopped" value="0">
      <parameterinfo name="pi_hoststopped">
```

```
<attribute name="max">1</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">9</attribute>
<attribute name="desc">Events (Host): Raise event "A host has shutdown".</attribute>
<attribute name="type">bool</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="hoststarted" value="0">
<parameterinfo name="pi_hoststarted">
<attribute name="max">1</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">9</attribute>
<attribute name="desc">Events (Host): Raise event "A host has started
up".</attribute>
<attribute name="type">bool</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="error" value="1">
<parameterinfo name="pi_error">
<attribute name="max">1</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">9</attribute>
<attribute name="desc">Events (Host): Raise event "A host error has
occurred".</attribute>
<attribute name="type">bool</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="remotecontrolsessionstopped" value="0">
<parameterinfo name="pi_remotecontrolsessionstopped">
<attribute name="max">1</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">9</attribute>
<attribute name="desc">Events (Host): Raise event "A remote control session has
stopped".</attribute>
<attribute name="type">bool</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="remotecontrolsessionstarted" value="0">
<parameterinfo name="pi_remotecontrolsessionstarted">
<attribute name="max">1</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">9</attribute>
<attribute name="desc">Events (Host): Raise event "A remote control session has
started".</attribute>
<attribute name="type">bool</attribute>
</parameterinfo></parameter>
</paramsection>
<paramsection name="security">
<parameter name="securityvalidatepermissionsfailed" value="1">
<parameterinfo name="pi_securityvalidatepermissionsfailed">
<attribute name="max">1</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">9</attribute>
```

```
<attribute name="desc">Events (Host): Raise event "A viewer user's request is
denied".</attribute>
<attribute name="type">bool</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="securityvalidateuserfailed" value="1">
<parameterinfo name="pi_securityvalidateuserfailed">
<attribute name="max">1</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">9</attribute>
<attribute name="desc">Events (Host): Raise event "A host-viewer login has
failed".</attribute>
<attribute name="type">bool</attribute>
</parameterinfo></parameter>
</paramsection>
</paramsection>
</paramsection>
</paramsection>
</allusers>
</configuration>
```

デフォルト値の制御

Remote Control ではローカル管理エージェントおよびマネージャ ポリシーのデフォルト値を制御することができます。

デフォルト値を制御するには、関連する XML ファイルで各プロパティの値設定を調整します。 **type=int** プロパティを調整する場合は、値が **Min** と **Max** の間に設定されていることを確認してください。

例：管理モードのフェイルセーフセキュリティの使用可能化

管理サーバがオフラインになると、Remote Control はエージェントに接続できません。デフォルトでは、この値は最適なセキュリティを提供するように設定されています。管理サーバのオフライン時にヘルプデスク技術者にホストへの接続を許可するには、**rcHostConfig.xml** ファイルで **enablefailsafe** パラメータの値を **1 (True)** に調整します。

以下は、スタンドアロンエージェントのデフォルト値です。

```
<configuration>
<allusers>
<paramsection name="itrm">
<paramsection name="rc">
<paramsection name="host">
.
.
.
<paramsection name="managed">
<parameter name="deferrals" value="1">
<parameterinfo name="pi_deferrals">
<attribute name="max">10</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">24</attribute>
<attribute name="desc">Host: Number of deferrals possible when
rebooting.</attribute>
<attribute name="type">int</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="defertime" value="300">
<parameterinfo name="pi_defertime">
<attribute name="max">3600</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">24</attribute>
<attribute name="desc">Host: Time that a reboot can be deferred (sec).</attribute>
```

```
<attribute name="type">int</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="checkaddressinterval" value="300">
<parameterinfo name="pi_checkaddressinterval">
<attribute name="max">3000</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">25</attribute>
<attribute name="desc">Host: Time period between checks for changes of the host's
listening addresses and protocols (sec).</attribute>
<attribute name="type">int</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="registerconnectioninterval" value="30">
<parameterinfo name="pi_registerconnectioninterval">
<attribute name="max">3000</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">25</attribute>
<attribute name="desc">Host: Time period (sec) between attempts to register a host
with the management server.</attribute>
<attribute name="type">int</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="refreshregistercomputer" value="86400">
<parameterinfo name="pi_refreshregistercomputer">
<attribute name="max">200000</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">25</attribute>
<attribute name="desc">Host: Time period (sec) between attempts to refresh the
registration of a host with the management server.</attribute>
<attribute name="type">int</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="enablesecuritycache" value="0">
<parameterinfo name="pi_enablesecuritycache">
<attribute name="max">1</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">25</attribute>
<attribute name="desc">Host: Enable security caching in managed mode.</attribute>
<attribute name="type">bool</attribute>
</parameterinfo></parameter>
<parameter name="enablefailsafe" value="1">
<parameterinfo name="pi_enablefailsafe">
<attribute name="max">1</attribute>
<attribute name="min">0</attribute>
<attribute name="flags">25</attribute>
<attribute name="desc">Host: Enable fail safe security in managed mode if connection
to manager fails.</attribute>
<attribute name="type">bool</attribute>
</parameterinfo></parameter>
```

```
</paramsection>
</paramsection>
</paramsection>
</paramsection>
</allusers>
</configuration>
```

Remote Control のダイアログ ボックスのローカライズ

Remote Control にはフランス語版、ドイツ語版、および日本語版に加えて、エージェントの韓国語版、簡体字中国語版、およびスペイン語版がありますが、その他の言語にローカライズすることもできます。ローカライズされるテキストは、リソース ファイル（.dll files）、Web ページ（.htm files）、イメージ（.gif）、およびプレーン テキスト ファイルで保存されます。

これらのファイルの多くは、ISO 言語コードがファイル名に組み込まれるか、または言語の名前が付けられたフォルダに保管されます。たとえば、ホストの文字列は `rcHostViewer.enu` に保存されます。一般的な言語コードは、英語（アメリカ）は `enu`、フランス語は `fr`、ドイツ語は `de`、スウェーデン語は `se`、イタリア語は `it`、ノルウェー語は `no`、スペイン語は `sp` です。

テキスト ファイル

ローカライズする文字列を含むテキスト ファイルは Remote Control インストール フォルダにあります。ファイル名は以下のとおりです。

- `rcHostViewer.enu`
ホストのエージェントおよびビューアの文字列
- `rcManager.enu`
管理サーバの文字列
- `rcHostConfig.xml`
プロパティの記述および値の文字列

最初の 2 つのファイルは、Windows の .ini ファイルと同じ形式です。つまり、`[sectionname]` の後に「`id=string`」形式の行セットが続くセクションに分割されています。識別子（*id*）を使用して、さまざまなプログラムが文字列を参照します。文字列の内容のみを変更し、識別子を変更しないようにしてください。

たとえば、rcHostViewer.enu のホストのセクション開始は以下のようになります。

```
#-----
# The host agent
[rcHost]
IDS_TIMERERROR="タイマを起動できませんでした"
IDS_GETADDRESSESTIMERFAILED="リスンしているアドレスをチェックするためのタイマを起動できませんでした。"
IDS_RC="Remote Control"
IDS_OK="成功"
IDS_SERVICEINSTALLED="サービスは正常にインストールされました"
IDS_SERVICEINSTALLFAILED="サービスをインストールできませんでした"
IDS_SERVICESTATUSFAILED="サービスのステータスを取得できませんでした"
IDS_SERVICESTOPPED="サービスが停止されました"
IDS_SERVICESTARTING="サービスを開始しています"
IDS_SERVICESTOPING="サービスを停止しています"
IDS_SERVICERUNNING="サービスを実行しています"
IDS_SERVICECONTINUING="サービスを続行しています"
IDS_SERVICEPAUSEPENDING="サービスの一時停止は保留中です"
IDS_SERVICEPAUSED="サービスが一時停止されました"
IDS_SERVICEUNKNOWN="サービスのステータスは不明です"
IDS_SVCSTARTFAILED="サービスを開始できません"
IDS_SVCSTARTING="サービス %1$t を開始しています"
IDS_SVCSTARTED="サービスが開始されました"
IDS_SVCSTOPFAILED="サービスを停止できません"
IDS_SVCSTOPPING="サービス %1$t を停止しています"
#-----
```

文字列には引用符が付けられています。また、最後の例には特殊マーカ文字列の「%1\$t」が含まれています。これは、ホストサービスの名前をプログラムで挿入する場合に、ホストによって使用されます。これらの特殊マーカが複数含まれる文字列もあります。その場合は、「%2\$t、%3\$t」のように順番に番号が付けられます。言語によっては英語とは異なる語順を使用するため、これらの番号は、挿入される文字列を正しい位置に配置するために使用されます。

必要なツール

リソースの関連情報を編集するには、以下のツールが必要です。

- .dll ファイルには、Visual C などの多くのプログラミング環境に組み込まれているリソース エディタが必要です。
- .htm ファイルには、Microsoft FrontPage などの HTML エディタ、または Notepad などのテキスト エディタが必要です。
- テキスト ファイルには、Notepad などのテキスト エディタが必要です。
- .gif ファイルには、Jasc Paint Shop Pro などのイメージエディタが必要です。

Remote Control のダイアログ ボックスをローカライズする方法

ローカライズされた **Remote Control** ファイルを作成するには、以下の方法のいずれかを使用します。

方法 1

すべての英語リソース ファイルのコピーを作成し、ファイル名を変更して適切な言語コードを含めます。コピーされたファイルがローカライズされます。新しいファイルを使用するには、追加設定も必要です。この方法の利点は、英語版ファイルが残るため、必要に応じて使用できることです。難点は、作業が増えることです。

方法 2

英語版のファイル (**en**) を翻訳します。**Remote Control** は自動的に翻訳されたファイルを使用します。通常、**Remote Control** はローカル言語に一致するファイルを検索し、見つからない場合は英語ファイルに戻ります。この場合、英語ファイルが使用され、英語ファイルに翻訳が含まれています。シンプルであることがこのスキームの利点ですが、英語版ファイルはありません。

以下のセクションでは、方法 1 を使用してローカライズ ファイルを作成していると仮定します。

ホスト エージェントのダイアログ ボックスのテキストの変更

ホストのダイアログ ボックスの翻訳には、以下のリソースの編集が必要です。

ホスト エージェントのダイアログ ボックス

通常の確認、再起動、およびメッセージ ダイアログ ボックス用に、ホスト エージェントは `rcHostViewer.enu` の `[rcHost]` セクションから文字列を読み取ります。このセクションは前述のように編集されています。

[ホスト プロパティ] ダイアログ ボックス

ホストのプロパティ ダイアログ ボックスは、`rcHostViewer.enu` の `[rcPropDialog]` セクションおよび XML ファイルに組み込まれたプロパティの説明から文字列を読み取ります。

ダイアログ ボックス自体は、`rcPropDialog_en.dll` から読み取られます。ダイアログ ボックスにテキスト文字列が埋め込まれているため、変更するにはリソース エディタを使用する必要があります。

ホスト イベント

ホストもまた、Windows イベント ログに任意にイベントをレポートし、`rcEvent.dll` を使用してイベント メッセージを保存します。テキスト文字列は、`rcEvents.enu` ファイルで編集することができます。

ビューアのダイアログ ボックスのテキストの変更

ビューアの翻訳は、ホストの翻訳よりも難しくなります。これは、編集するリソースが多いためです。ビューアは `EGC Framework` を使用するため、基本的なフレームワークおよびビューアのプラグインの両方をローカライズする必要があります。プラグインのみの基本的な概要は、ここで提供されます。

EGC ベースのビューアの変換

EGC ベースのビューアは、さまざまな場所からリソースを取得します。

- ダイアログ ボックス、Web ページ、およびイメージは、gui_rcview.dll に保存されています。

gui_rcview_se.dll のように国コードを含めて、このファイルのコピーを作成します。

- [ビューア プロパティ] ダイアログ ボックスは、rcPropDialog_en.dll に保存されています。

rcPropDialog_se.dll のように国コードを使用して、新しい名前でのこのファイルのコピーを作成します。その後、リソース エディタを使用して、ローカライズするダイアログの文字列を編集します。

- ビューアは、rcHostViewer.enu の [rcPlugin] セクションから、メッセージダイアログ ボックスに文字列を読み取ります。

新しい gui_rcview.dll ファイルを使用するには、EGC を設定する必要があります。この操作を行うには、以下のレジストリ エントリを作成します(スウェーデンのロケール、SE と仮定)。

```
#-----  
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\EGC3.0N\Locale\SE]  
"HelpFile"="C:\Program Files\CAS\EGC\egc30enu.chm"  
"ResourceDLL"="C:\Program Files\CAS\EGC\egc30Nres.enu"  
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\EGC3.0N\Plugins\ITRMRC_DSMVIEW\Locale\SE]  
"HelpFile"="C:\Program Files\CAS\DSM\help\gui_rcview_help_enu.chm"  
"MessageHelpFile"="C:\Program Files\CAS\DSM\help\gui_rcview_msg_enu.chm"  
"ResourceDLL"="C:\Program Files\CAS\DSM\bin\gui_rcview_se.dll"  
#-----
```

この操作の簡単な方法は、テキスト ファイルに既存の英語のエントリをエクスポートし、Notepad を使用して編集し、その後、レジストリにインポートする方法です。

この例では、Remote Control は C ドライブのデフォルトの場所にインストールされていると仮定しています。ヘルプ ファイルはお客様でローカライズできないため、英語のヘルプ ファイルを使用しています。

リプレイヤのダイアログ ボックスのテキストの変更

Remote Control リプレイヤは、ビューアのリソースと同様のリソースを使用します。gui_rcreplay.dll に保存されている点が異なります。

EGC を設定してリソースを使用するには、レジストリ エントリを作成します（この例ではスウェーデン語と仮定）。

```
#-----  
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ComputerAssociates¥EGC3.0N¥Plugins¥ITRMRC_DSMREPLAY¥  
Locale¥SE]  
"HelpFile"="C:¥¥Program Files¥¥CA¥¥DSM¥¥help¥¥gui_rcreplay_help_enu.chm"  
"MessageHelpFile"="C:¥¥Program Files¥¥CA¥¥DSM¥¥help¥¥gui_rcreplay_msg_enu.chm"  
"ResourceDLL"="C:¥¥Program Files¥¥CA¥¥DSM¥¥bin¥¥gui_rcreplay_se.dll"  
#-----
```

ヘルプ ファイルのテキストの変更

ヘルプ ファイルには、拡張子の「.chm」が付けられています（コンパイル済 HTML）。前述のとおり、ヘルプ ファイルは編集できません。

第 6 章：記録ファイルのビデオへのエクスポート

再生エクスポート ツール `rcReplayExport.exe` を使用して、Remote Control 独自仕様の *.urc ファイルを共通のビデオ形式（AVI および WMV）に変換できます。このような記録形式は、Remote Control がインストールされていない場合でも再生できます。AVI および WMV は、数多くのメディア プレーヤ アプリケーション、また一部の DVD プレーヤでも再生できます。たとえば、ユーザが実行する必要がある複雑なタスクを詳しく説明するヘルプ デスク用に、記録を蓄積することができます。ユーザは、Remote Control リプレーヤがなくても、記録をダウンロードおよび閲覧することができます。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[前提条件](#) (P. 67)

[変換における注意事項](#) (P. 68)

[変換形式](#) (P. 69)

[圧縮コーデックの設定](#) (P. 70)

[再生エクスポート ツールへのアクセス](#) (P. 71)

[rcReplayExport コマンド -- \[エクスポート\] オプションの設定](#) (P. 72)

前提条件

WMV 形式のファイルをエクスポートするには、Windows Media Format ランタイム アプリケーションがインストールされている必要があります（インストールされていない場合）。これは、`WindowsProductFiles_x86¥WindowsMedia¥wmfdist.exe` フォルダにあるインストール メディアから入手可能です。

変換における注意事項

再生エクスポート ツールは、*.urc ファイルを圧縮されていないビデオ ストリームに変換し、その後、ビデオ ストリームは指定した圧縮ビデオ コーデックに送り込まれます。再生エクスポート ツールは、デフォルトの設定オプションを変更しないで記録ファイルをビデオに変換できるように設計されています。ただし、ビデオ ファイルへの変換は複雑な処理であるため、この操作は上級ユーザにお勧めします。変換プロセスを調整して最適な結果を得るための一連の設定オプションも使用できます。

.urc 記録ファイル形式は、画面のアクティビティを正確に記録する目的で特に使用され、非常に小さなファイルサイズで優れた品質を提供します。ファイルをビデオに変換する場合、一般的に、ファイルサイズの増加に加え、品質がかなり低下します。しかし、画面のアクティビティが複雑な記録に対しては、変換が有効である場合があります。

ビデオ圧縮は、低速で CPU 集中型の操作です。短い記録をビデオに変換するのに、数分かかることもあります。したがって、最初に短い記録で変換のテストを行い、変換が最適であるかを確認してください。

AVI ファイル形式では、圧縮されていないビデオを保存できます。圧縮されていないビデオ ファイルは非常に大きいことに注意してください（通常、少なくとも 1 GB/分）。したがって、これはお勧めしません。

注：これで、品質の低下なく *.urc 記録ファイルを直接 Windows Media Player で再生できるので、Remote Control リプレイヤ アプリケーションがインストールされている場合、これが最適なソリューションであるかどうかを考慮してください。

変換形式

記録の変換のメインパラメータは、ファイル形式およびビデオ圧縮コーデックです。基本的に、ファイル形式は圧縮されたビデオデータのコンテナを定義し、圧縮コーデックはビデオデータが圧縮される方法を定義します。ファイル形式によっては、特定の圧縮コーデックのみをサポートする場合があります。再生エクスポートツールは、AVI および WMV (Windows Media Video) 形式をサポートします。AVI 形式は多くの圧縮コーデックをサポートしますが、ストリームメディアのダウンロードには、最新の WMV 形式が適しています。

再生エクスポートツールは、ビデオ圧縮コーデックをインストールするのではなく、ビデオデータを圧縮するために、コンピュータにインストールされているビデオ圧縮コーデックを利用します。ビデオの変換を実行するには、適切なコーデックをインストールする必要があります。優れた圧縮性能を提供する Windows Media 圧縮コーデックは、通常、Windows Media Player または DirectX と共にデフォルトでインストールされています。また、XviD [@xvid.org](http://xvid.org) や DivX® などのサードパーティ製のビデオコーデックをインストールすることもできます。インストール後、再生エクスポートツールは、使用できるコーデックを自動的に検出し、指定したファイル形式に最適なコーデックを、デフォルトの設定に選択します。[ビデオ圧縮コーデック] ドロップダウン リストから別のコーデックを選択する場合は、広く導入されている一般的な圧縮コーデックを選択します。

変換されたビデオを再生するには、選択したビデオ圧縮形式をデコードできるメディアプレーヤがインストールされている必要があります。したがって、対象読者のコンピュータにインストールされている可能性が高いコーデックを選択することをお勧めします。たとえば Windows Media コーデックの場合、Windows Media 9 コーデックは最適な変換結果を提供しますが、旧バージョンの Windows Media Player を使用するユーザは、アップグレードまたはコーデック パックを追加でダウンロードしないと、変換されたビデオを再生できない可能性があります。ただし、現在では、多くのプレーヤアプリケーションは必要に応じてインターネットから自動的にコーデックをダウンロードできます。

圧縮コーデックの設定

各圧縮コーデックには各コーデック固有の設定ダイアログ ボックスが提供され、コーデック プロバイダによって文書化されています。したがって、コーデックの設定についての詳細説明は、このマニュアルおよびオンライン ヘルプの範囲外となります。

一般的に、ビデオ変換において考慮すべき最も重要な点は、ビット レートです。一般に、ビット レートが高いほどビデオの品質は向上し、また、ファイルサイズもそれに合わせて増加します。多くのコーデックは、定数および変数の両方のビット レート エンコードをサポートします。**CBR** エンコードはストリーミング ダウンロードに適し、ダウンロードの帯域幅は事前にわかります。**VBR** エンコードは、画面のアクティビティのレベルに合わせて、エンコードのビット レートが変わります。これは、品質低下のない、小さなビデオ ファイルになります。

VBR エンコードは、記録時のビデオ アクティビティのレベルを評価することで機能し、使用するビット レートを決定します。ただし、この評価は通常、画面キャプチャ ビデオに特有なアクティビティの検出には対応しません。したがって、記録の変換の品質は、**VBR** エンコード使用時に低下する場合があります。

最適な変換結果を得るには、複数のコーデックを試し、品質およびファイル サイズを比較することをお勧めします。

再生エクスポート ツールへのアクセス

再生エクスポート ツールへのアクセスには、複数の方法があります。

再生エクスポート ツールにアクセスするには、これらの方法のうち 1 つを選択します。

- 最近記録または再生したセッションを右クリックし、[クイック エクスポート] をクリックします。

クイック エクスポートは、デフォルトのエンコード オプションを使用して自動的に変換処理を開始し、追加入力を必要としません。

- 最近記録または再生したセッションを右クリックし、[ビデオへのエクスポート] をクリックします。

ビデオへのエクスポートにより、[エクスポート オプション] ダイアログ ボックスが呼び出されます。このダイアログ ボックスを使用すると、変換処理を開始する前に、デフォルトのエンコード オプションを表示または変更できます。

注：クイック エクスポート機能および [エクスポート オプション] ダイアログ ボックスの詳細については、「*DSM* エクスプローラ ヘルプ」の「Remote Control リプレイヤ」のセクションを参照してください。

- Windows エクスプローラで、rcReplayExport.exe をダブルクリックします。
- コマンドライン インターフェースを使用します。

たとえば、以下のコマンドは、最適なコーデックおよびデフォルトのエンコード オプションを使用して、Windows Media Video 形式の現在のフォルダにあるすべての記録ファイルを変換します。

```
rcReplayExport /WMV *.urc
```

rcReplayExport コマンド -- [エクスポート] オプションの設定

以下の構文には、再生エクスポート ツールのコマンドライン パラメータ オプションがリストされています。

```
rcReplayExport [/WMV [/BR bitrate] [/Q quality] [/VBR] | /AVI [/CODEC codec]] [/QUIET] [/IDLE] [ input file [...]]
```

/WMV

WMV 形式へのエンコードを指定します。

/BR *bitrate*

1 秒あたりキロビットで、エンコードのビット レートを定義します (>= 28kbps である必要があります) 。

/Q *quality*

1 - 100 の範囲で品質の値を定義します。

/VBR

変数のビット レート モードを指定します。

/AVI

コーデックのデフォルト オプションで AVI 形式へのエンコードを指定します。

/CODEC *codec*

使用するビデオ コーデックを指定します。

/QUIET

進捗状況のダイアログ ボックスを表示しないように指定します。

/IDLE

アイドル プロセッサ時間中に変換が実行されるよう指定します。

注： 入力ファイルのリストは、コマンドラインの最後に指定できます。 リストには、ワイルドカードの「*」および「?」が含まれている場合があります。

注： /WMV または /AVI のいずれかを指定する場合は、[エクスポート オプション] ダイアログ ボックスは表示されません。

例

この例では、以下の現在のフォルダ内のすべての記録ファイルを変換できる **Replay Export** ダイアログ ボックスを開きます。

```
rcReplayExport *.urc
```

この例では、最適なコーデックおよびデフォルトのエンコード オプションを使用して、現在のフォルダ内のすべての記録ファイルを **Windows Media Video** 形式に変換します。

```
rcReplayExport /WMV *.urc
```

この例では、**Microsoft MPEG-4 Codec V3** 圧縮コーデックを使用して、**test1.urc** および **test2.urc** ファイルを **test1.avi** および **test2.avi** に変換します。

```
rcReplayExport /AVI /CODEC "Microsoft MPEG-4 Codec V3" test1.urc test2.urc
```


第 7 章：診断およびトラブルシューティング

この章では、診断ツールおよび Remote Control の問題のトラブルシューティングのヒントについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ログ ファイル収集ツール dsminfo](#) (P. 76)

[接続に関する問題](#) (P. 76)

[ログオンに関する問題](#) (P. 79)

[再起動ボタンが無効化されている](#) (P. 80)

[グローバル アドレス帳を抽出できません](#) (P. 81)

[リモート コントロール セッションが RHEL 5 エージェントで失敗する](#) (P. 81)

[診断ツール](#) (P. 82)

[テクニカル サポート](#) (P. 82)

ログ ファイル収集ツール dsminfo

CA Technologies は、Client Automation がインストールされているシステムから、診断情報を収集する dsminfo ツールを提供しています。収集されたデータは、ログ ファイル、システム情報、ディレクトリ構造、レジストリおよび環境情報を含む単一のファイルに圧縮されます。この診断ツールは、Client Automation 製品インストール メディアの「DiagnosticTools」フォルダの下にあります。

Client Automation の問題が再現可能である場合は、以下のコマンドを実行してトレース レベルを **DETAIL** に変更してください。

```
cftrace -c set -l DETAIL
```

問題を再現し、dsminfo ツールを使って診断情報を収集してください。

注：

このツールの詳細については、製品インストール メディアの「DiagnosticTools」フォルダの下にある **DSMInfoReadMe.txt** ファイルを参照してください。

dsminfo ツールは、デフォルトでは「.7z」ファイルを作成します。これらのファイルは ZIP ファイルより高い圧縮を実行できます。そのため、CA へのアップロードが容易です。

接続に関する問題

ネットワーク接続の問題領域には、物理的なネットワーク接続、プライマリ ネットワーク アドレスの設定、および Remote Control ホスト構成に関する問題領域があります。

ネットワーク接続に失敗しました

症状

ネットワークに接続できません。

解決方法

ping コマンドを使用して、基本的なネットワークの問題を検出してください。

例

ローカルの TCP/IP スタックを調べるには、たとえば、コマンドライン ウィンドウに以下のコマンドを入力します。

```
ping 127.0.0.1
```

応答がある場合は、コンピュータのネットワーク ソフトウェアは動作しています。

リモート コンピュータへの接続を調べるには、以下のコマンドを入力します。

```
ping address of remote host
```

IP アドレスに失敗しました

症状

コンピュータの IP アドレスを入力するたびに、エラー メッセージが表示されます。

解決方法

IP アドレスがネットワーク アダプタに割り当てられていないか、DNS サーバに間違ったコンピュータの IP アドレスが登録されている可能性があります。

このいずれかの状態が存在するかどうかを調べるには、以下を実行します。

1. コマンドライン ウィンドウで、以下のコマンドを入力します。

```
ipconfig
```

ローカル IP アドレスが表示されます。

2. ホスト名を入力します。

使用中のコンピュータの名前が表示されます。

3. 使用中のコンピュータの正しい名前が DNS にあるかどうかを調べるには、以下のコマンドを入力します。

```
ping hostname
```

この手順では、ホスト名に一致すると DNS が判断する IP アドレスがエコーされます。「ipconfig」が返す IP アドレスと異なる場合、不一致が存在します。

4. 一致しない IP アドレスを修正するには、以下のコマンドを入力します。

```
ipconfig /renew
```

Remote Control ホストのステータスが不明です

症状

Remote Control ホストの現在のステータスはどのように確認するのですか？

解決方法

Remote Control ホストプログラムは、Common Application Framework (CAF) の制御下で動作します。CAF を使用すると、以下のコマンドを入力し、リモート ホストコンピュータが動作しているかどうかを確認できます。

```
caf status rchost host remote computer address
```

ログオンに関する問題

ログオンに関する問題は、一般的に、クレデンシャルが無効であったり、ユーザーに権限がなかったり、権限が正しくないことが原因です。

クレデンシャルが無効です

症状

ユーザー名とパスワードを入力するたびに、入力した情報が無効であるというエラーメッセージが表示されます。

解決方法

Remote Control では、2 つの方法を使用してクレデンシャルを検証します。一元化されたセキュリティ ポリシーが無効である集中管理インストール、またはスタンドアロンインストールでは、ホストは、リモート コンピュータ上のローカルまたはドメイン アカウントのビューア コンポーネントに入力されたクレデンシャルを照合します。一元化されたセキュリティ ポリシーが有効である（デフォルト設定）場合、集中管理インストールには同じプロセスが適用されますが、このプロセスはマネージャが動作しているコンピュータから実行されます。

注：集中セキュリティ設定ポリシーの詳細については、「*DSM* エクスプローラ ヘルプ」の「設定ポリシー」を参照してください。

クレデンシャルを正しく入力しているけれども Remote Control にクレデンシャルを拒否される場合は、以下のコマンドを使用し、ホスト コンピュータにログオンして単独で確認します。

```
net use %host computer name%c$ /user:username password
```

接続権限がありません

症状

クレデンシャルは認証されましたが、権限がないというメッセージが表示されます。

解決方法

クレデンシャルは認証されるが、有効なユーザとしてアクセスできない場合は、システム管理者にお問い合わせください。リモート ホスト コンピュータ上のアカウントに正しい権限が割り当てられます。

再起動ボタンが無効化されている

症状

Remote Control が再起動が保留中であると通知してくる場合に、ボタンが無効化されているために再起動を延期またはキャンセルできないことがある。

解決方法

Remote Control が切断後にコンピュータを再起動する際に、カウントダウン ダイアログ ボックスが表示され、ここで再起動が保留中になっていることが通知されます。このダイアログ ボックスには 3 つの有用なボタン、[今すぐ再起動] [延期] [キャンセル]、があります。一部の状況下では、これらのボタンが無効化されています。

これは、通常 Microsoft リモート デスクトップ 接続を利用して 2 人以上のユーザがマシンにログオンしている場合に発生します。理由は、1 人のユーザがランダムにマシンの再起動を行えば、すべてのユーザに対して警告なしに影響がおよぶため、このような作業が許可されないためです。

グローバル アドレス帳を抽出できません

症状

スケーラビリティ サーバを新しいドメイン マネージャに移動したところ、新しいマネージャからグローバル アドレス帳を抽出できなくなりました。

解決方法

Remote Control ビューアでは、パラメータ

「`itrm/agent/units/currentmanageraddress`」を使用して、`comstore` からグローバルアドレス帳の抽出元のドメイン マネージャのネットワーク アドレスを取得します。このパラメータは、エージェントがスケーラビリティ サーバに登録されることに取り込まれます。

スケーラビリティ サーバが新しいドメイン マネージャに移動された場合、つまり新しいドメイン マネージャに登録されて元のドメイン マネージャから登録解除された場合は、そのスケーラビリティ サーバを経由して接続するすべてのエージェントでは、このパラメータは元のマネージャのアドレスに設定されたままになります。エージェントの再登録が完了し、上記の `comstore` パラメータが正しく取得されるまではビューアのグローバルアドレス帳が正しくダウンロードされないため、エージェントをスケーラビリティ サーバに再登録する必要があります。

リモート コントロール セッションが RHEL 5 エージェントで失敗する

症状

RHEL 5 エージェントでセキュア モードのリモート コントロール セッションを開始すると、以下のエラーが表示されます。

`Esc` がすでに実行されていますが、応答していません。新しいウィンドウを開くには、まず既存の `ESC` プロセスを閉じるか、システムを再起動する必要があります。

解決方法

以下のコマンドを実行します。

```
yum remove esc
```

診断ツール

以下の診断ツールは、CA Client Automation で使用できます。

イベント ログ

Windows では、[設定] - [コントロール パネル] - [管理ツール] - [イベント ビューア] - [アプリケーション] フォルダで、アプリケーションのイベント ログを表示できます。イベントは Remote Control ホストによってアプリケーション フォルダに置かれます。イベントは問題を示す場合もあります。

Linux では、システム ログを参照します。

ログのトレース

CA Client Automation コンポーネントは、以下のフォルダのファイルにトレース情報を書き込みます。

c:\Program Files\CA\DSM\logs

ドライブは使用するコンピュータによって異なる場合があります。トレースのエラーがあるかどうかを確認するには、TRC_RCHOST.log を開きます。

テクニカル サポート

詳細については、当社テクニカル サポート (<http://www.ca.com/jp/support/>) にお問い合わせください。

付録 A: Remote Control XML ファイル

特定の初期化を必要とする各 CA Client Automation コンポーネントは、XML ファイルと共にインストールされます。XML ファイルには、基本設定コンポーネントで生成されるエントリの詳細が保存されます。この付録には、Remote Control 設定 XML ファイルのリストが掲載されています。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Remote Control XML ファイル](#) (P. 83)

Remote Control XML ファイル

以下に、インストールメディアの Program Files\CA\DSM\bin ディレクトリ、またはインストール後のアプリケーションディレクトリにある Remote Control 設定 XML ファイルを一覧表示します。

ファイル	コメント
rcCAMConfig.xml	重要： CA テクニカル サポートの指示がない限り、デフォルトを変更しないでください。
rcCommonConfig.xml	重要： CA テクニカル サポートの指示がない限り、デフォルトを変更しないでください。
rcHostConfig.xml	ホスト固有の設定。
rcHostEventsConfig.xml	ホスト イベント メッセージ。
rcHostUnmanagedConfig.xml	スタンドアロン ホスト固有の設定。
rcLocalSecurityConfig.xml	ローカル セキュリティ プロバイダの設定。
rcManagementConfig.xml	マネージャおよびマネージャ ポリシーの設定。
rcManagementEventsConfig.xml	マネージャおよびマネージャ ポリシー イベントの設定。

ファイル	コメント
rcNTSecurityConfig.xml	統合プロバイダ設定 (Windows および DSM X.509 証明書)。
rcProtocolsConfig.xml	TCP プロトコルの設定。
rcRegister.xml	ホストのエンタープライズ登録設定。
rcSecurityConfig.xml	ホストのセキュリティ設定の設定。
rcUnixSecurityConfig.xml	統合プロバイダ設定 (Linux および DSM X.509 証明書)。
rcViewerConfig.xml	ビューア固有の設定。